

有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成28年4月1日

(第166期) 至 平成29年3月31日

日本コロムビア株式会社

(E01787)

第166期（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

有価証券報告書

- 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

日本コロムビア株式会社

目 次

頁

第166期 有価証券報告書

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	6
4 【関係会社の状況】	7
5 【従業員の状況】	8
第2 【事業の状況】	9
1 【業績等の概要】	9
2 【生産、受注及び販売の状況】	10
3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	11
4 【事業等のリスク】	13
5 【経営上の重要な契約等】	15
6 【研究開発活動】	15
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	16
第3 【設備の状況】	18
1 【設備投資等の概要】	18
2 【主要な設備の状況】	18
3 【設備の新設、除却等の計画】	18
第4 【提出会社の状況】	19
1 【株式等の状況】	19
2 【自己株式の取得等の状況】	25
3 【配当政策】	26
4 【株価の推移】	26
5 【役員の状況】	27
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	31
第5 【経理の状況】	38
1 【連結財務諸表等】	39
2 【財務諸表等】	76
第6 【提出会社の株式事務の概要】	87
第7 【提出会社の参考情報】	88
1 【提出会社の親会社等の情報】	88
2 【その他の参考情報】	88
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	89

監査報告書

内部統制報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年6月26日

【事業年度】 第166期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

【会社名】 日本コロムビア株式会社

【英訳名】 Nippon Columbia Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 吉 田 眞 市

【本店の所在の場所】 東京都港区虎ノ門四丁目1番40号

【電話番号】 03(6895)9870

【事務連絡者氏名】 取締役最高財務責任者 鈴 木 千佳代

【最寄りの連絡場所】 東京都港区虎ノ門四丁目1番40号

【電話番号】 03(6895)9870

【事務連絡者氏名】 取締役最高財務責任者 鈴 木 千佳代

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第162期	第163期	第164期	第165期	第166期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
売上高 (百万円)	14,311	13,975	12,629	13,343	14,020
経常利益 又は経常損失(△) (百万円)	591	363	△862	1,213	1,853
親会社株主に帰属する 当期純利益又は 親会社株主に帰属する 当期純損失(△) (百万円)	359	283	△1,646	973	1,655
包括利益 (百万円)	380	296	△1,463	963	1,586
純資産額 (百万円)	3,089	2,940	1,418	2,365	3,923
総資産額 (百万円)	8,730	8,758	7,760	7,988	9,763
1株当たり純資産額 (円)	△250.75	213.35	100.77	172.18	289.76
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△) (円)	26.61	20.98	△122.07	72.17	122.77
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	34.7	32.9	17.5	29.1	40.0
自己資本利益率 (%)	12.7	9.6	△77.7	52.9	53.2
株価収益率 (倍)	30.1	34.0	—	6.3	5.6
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,462	189	△588	1,462	2,165
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△251	△242	△228	△248	△482
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△49	△399	504	△263	△297
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	4,343	3,895	3,590	4,542	5,927
従業員数 (名)	303	300	261	216	228

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第162期の1株当たり純資産額の算定に当たっては、優先株主に対する残余財産の分配額(1株につき65円65銭)および累積未払配当金相当額を控除して算定しております。

3 第162期、第163期、第165期および第166期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 第164期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

5 1株当たり当期純利益の算定に当たっては、普通株式期中平均株式数にA種優先株式を加えております。

6 平成25年10月1日付で普通株式およびA種優先株式につき20株を1株にする株式併合を行っております。第162期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益を算定しております。

7 第164期の株価収益率は、親会社株主に帰属する当期純損失を計上しているため記載しておりません。

8 従業員数は、就業人員数を表示しております。

9 第162期に当社のCD・DVD等の音楽・映像ソフトおよびゲーム関連ソフト等の販売に関する事業ならびに製造販売受託事業を会社分割により分社し、当社の100%出資子会社であるコロムビア・マーケティング株式会社を新たに設立しております。

10 第163期に株式会社オーマガトキの全株式を取得いたしました。なお、株式取得日(平成25年10月1日)から同社を連結しております。

11 第165期にエスエルジーエルエルシーに対する出資の全持分を譲渡いたしました。なお、出資の全持分を譲渡した日(平成27年6月30日)まで同社を連結しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第162期	第163期	第164期	第165期	第166期
決算年月		平成25年 3 月	平成26年 3 月	平成27年 3 月	平成28年 3 月	平成29年 3 月
売上高	(百万円)	13,093	12,343	11,020	12,160	13,159
経常利益 又は経常損失(△)	(百万円)	1,128	289	△983	925	1,613
当期純利益 又は当期純損失(△)	(百万円)	657	335	△1,530	956	1,617
資本金	(百万円)	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
発行済株式総数						
普通株式	(株)	185,510,651	13,512,870	13,512,870	13,512,870	13,512,870
A種優先株式	(株)	76,924,000	—	—	—	—
純資産額	(百万円)	2,554	2,584	607	1,548	3,139
総資産額	(百万円)	7,650	7,845	6,710	6,851	8,671
1株当たり純資産額	(円)	△308.46	186.96	40.70	111.65	231.60
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額)	(円) (円)	— (—)	4.00 (—)	— (—)	— (—)	— (—)
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)	(円)	48.73	24.85	△113.45	70.93	119.91
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率	(%)	32.6	32.2	8.2	22.0	36.0
自己資本利益率	(%)	30.4	13.4	△99.7	93.1	69.9
株価収益率	(倍)	16.4	28.7	—	6.4	5.8
配当性向	(%)	—	16.1	—	—	—
従業員数	(名)	217	219	177	153	165

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 2 第162期の1株当たり純資産額の算定に当たっては、優先株主に対する残余財産の分配額(1株につき65円65銭)および累積未払配当金相当額を控除して算定しております。
- 3 1株当たり配当額は、普通株式に対する配当のみを記載しております。なお、第162期におけるA種優先株式に対する1株当たり配当額は、3.90円となっております。
- 4 第162期、第163期、第165期および第166期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 5 第164期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。
- 6 1株当たり当期純利益の算定にあたっては、普通株式期中平均株式数にA種優先株式期中平均株式数を加えております。
- 7 平成25年10月1日付で普通株式およびA種優先株式につき20株を1株にする株式併合を行っております。第162期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益を算定しております。
- 8 第164期の株価収益率は、当期純損失を計上しているため記載しておりません。
- 9 平成25年10月2日付でA種優先株式の取得請求期限が到来したことにより、翌日付で発行済のA種優先株式3,846,200株すべてを一斉取得し、消却するとともに、取得の対価として普通株式4,237,338株を交付しております。
- 10 従業員数は、就業人員数を表示しております。

2 【沿革】

明治43年10月	レコード・蓄音器の製造販売を目的とし、東京市京橋区に株式会社日本蓄音器商會を設立(資本金35万円)
明治45年4月	日米蓄音機製造株式会社を吸収合併
大正13年9月	大和木工株式会社を当社の傘下に収める
昭和4年5月	本社を川崎市に移転
昭和6年7月	コロムビア商標を米国コロムビアより譲り受け「二連音符のコロムビアマーク」を正式商標として全商品に統一使用開始
昭和17年8月	商号を日蓄工業株式会社に変更
昭和21年4月	商号を日本コロムビア株式会社に変更
昭和24年5月	株式を東京、大阪、名古屋各証券取引所に上場
昭和38年4月	日本電気音響株式会社を吸収合併し、三鷹工場とする。DENON商標を商品に使用開始
昭和40年2月	本社を現在の東京都港区に移転
昭和44年10月	株式会社日立製作所と業務提携
昭和55年1月	米国に販売会社デノン アメリカ インコーポレーテッド設立
昭和58年3月	白河工場竣工、川崎工場の音響機器製造部門及び三鷹工場を移転し、音響機器工場として稼働開始
昭和58年7月	西独に販売会社デノン エレクトロニック ゲー・エム・ベー・ハー設立(平成5年11月デノン コンシューマー エレクトロニクス ゲー・エム・ベー・ハーが同社を子会社とする)
〃	川崎工場内にCD工場竣工
昭和61年2月	米国にCD、CD-ROMの製造販売会社デノン デジタル インダストリーズ インコーポレーテッド設立
昭和63年4月	西独にオーディオ関連機器製造販売会社デノン コンシューマー エレクトロニクス ゲー・エム・ベー・ハー設立
平成5年2月	香港に販売会社デノン ホンコン リミテッド設立(同社は平成11年3月、商号をデノン アジアカンパニー リミテッドに変更)
平成6年1月	デノン アメリカ インコーポレーテッドが存続会社となってデノン デジタル インダストリーズ インコーポレーテッドと合併し、商号をデノン コーポレーション(USA)とする
平成10年4月	デノン コンシューマー エレクトロニクス ゲー・エム・ベー・ハーは、デノン エレクトロニック ゲー・エム・ベー・ハーとデノン ヨーロッパ ゲー・エム・ベー・ハーを吸収合併し、商号をデノン エレクトロニック ゲー・エム・ベー・ハーに変更
平成11年1月	デノン コーポレーション(USA)のCD、CD-ROM等の制作製造販売部門を独立させ、デノン デジタル エルエルシーを設立
平成13年10月	AV・メディア関連機器部門を株式会社デノンとして分社化、譲渡 この際、デノン エレクトロニクス インク(USA)、デノン アジア カンパニー リミテッドおよびデノン エレクトロニック ゲー・エム・ベー・ハー等の株式も譲渡
平成14年4月	デノン コーポレーション(USA)がオーディオ・ビデオソフトの制作・販売等の子会社エスエルジー エルエルシーを設立

平成14年10月	商号をコロムビアミュージックエンタテインメント株式会社に変更
〃	デノン コーポレーション(USA)は、商号をシーエムイーインクに変更
〃	CD・DVD等の生産本部事業をコロムビアデジタルメディア株式会社として分社化
平成16年1月	株式会社コロムビアファミリークラブを吸収合併(簡易合併)
平成17年7月	コロムビアアーティストマネジメント株式会社を設立
〃	コロムビアデジタルメディア株式会社の株式を譲渡
平成18年3月	デノン デジタル エルエルシーが行うCD・DVDプレス事業を非継続として決議
平成19年11月	TDK株式会社より子会社であるTDKコア株式会社の全株式を取得 (同社は平成20年2月、商号をクリエイティヴ・コア株式会社に変更)
平成20年4月	シーエムイー インクが同社の100%出資子会社であるデノン デジタル エルエルシーを吸収合併
平成21年9月	コロムビアアーティストマネジメント株式会社を解散(事業は提出会社が承継)
平成22年1月	クリエイティヴ・コア株式会社が行う教育・ゲーム・音楽ソフト事業を吸収分割により承継
平成22年10月	商号を日本コロムビア株式会社に変更
平成23年3月	クリエイティヴ・コア株式会社の株式を譲渡
平成24年10月	CD・DVD等の音楽・映像ソフトおよびゲーム関連ソフト等の販売に関する事業ならびに製造販売 受託事業をコロムビア・マーケティング株式会社として分社化
平成25年10月	株式会社新星堂より子会社である株式会社オーマガトキが会社分割(新設分割)のうえ設立した 新設分割設立会社の全株式を取得
平成26年3月	株式会社フェイスの当社株式公開買付けにより、同社の連結子会社化
平成26年4月	配信事業および特販/通販事業における販売に関する事業を吸収分割によりコロムビア・マー ケティング株式会社に承継
平成27年6月	エスエルジー エルエルシーの出資の全持分を譲渡

3 【事業の内容】

当社の企業集団は、当社および子会社 5 社、関連会社 2 社で構成されており、市販／配信事業および特販／通販事業などを行っております。

「市販／配信」事業は、企画、制作したオーディオ・ビデオソフト、ゲームソフト等の音源、映像コンテンツに基づく商品の販売、アーティストマネジメント等を主に行っております。

(主な関係会社) 当社およびコロムビア・マーケティング(株)

「特販／通販」事業は、「市販／配信」事業が制作した音源、映像などのコンテンツを二次利用した商品の販売を主に行っております。

(主な関係会社) 当社およびコロムビア・マーケティング(株)

「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、音楽著作権取得管理事業および製造販売受託事業等を行っております。

(主な関係会社) 当社およびコロムビア・マーケティング(株)、コロムビアソングス(株)

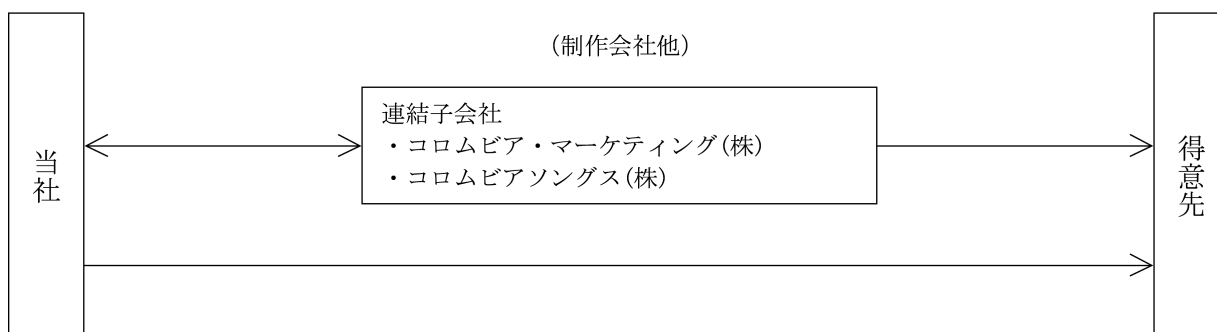
〈主な関係会社〉

コロムビア・マーケティング(株)

コロムビアソングス(株)

系統図

(注) → は製品・商品・サービスなどの供給



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 〔被所有〕 割合(%)	関係内容
(親会社) (株)フェイス ※1	京都府京都市 中京区	3,218	コンテンツ配信事業	[51.9]	共同原盤制作、通販および配 信事業における業務委託、出 向および出向受入等 役員の兼任等…有
(連結子会社) コロムビア・ マーケティング(株) ※2	東京都港区	100	音楽、映像ソフトおよび ゲーム関連ソフト等の販 売に関する事業ならびに 製造販売受託事業	100.0	当社音楽、映像ソフトおよび ゲーム関連ソフトの販売委託 役員の兼任等…有
コロムビアソングス(株)	東京都港区	20	音楽著作権の取得、管 理、開発、利用及び原盤 制作等	100.0	当社音楽著作権の取得、管理 業務委託 役員の兼任等…有
その他3社 ※2	—	—	—	—	—
(持分法適用関連会社) (株)フューチャーレコーズ	東京都港区	100	アーティストに関わる著 作物の企画制作、管理等	33.0	資金の貸付 役員の兼任等…有
その他1社	—	—	—	—	—

(注) 1 ※1は有価証券報告書の提出会社であります。

2 ※2は特定子会社であります。なお、その他に含まれる会社のうち、シーエムイーインクは特定子会社であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成29年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
市販/配信	128
特販/通販	11
その他	16
全社(共通)	73
合 計	228

(注) 従業員数は就業人員数であります。

(2) 提出会社の状況

平成29年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
165	42.0	12.6	6,644,290

(注) 1 従業員数は就業人員数であります。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

セグメントの名称	従業員数(名)
市販/配信	121
特販/通販	—
その他	7
全社(共通)	37
合 計	165

(3) 労働組合の状況

提出会社の従業員で構成されている労働組合(コロンビア労働組合)はC&D労働組合協議会に属し、組合員数は平成29年3月31日現在112名で、労使関係は円満であり、特記する事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

日本の音楽市場につきまして、配信に関しましては平成28年1月から12月(最新情報)における有料音楽配信の売上実績は前年同期比112%となりましたが、当社にとって依然として主要な市場であるパッケージ商品に関しましては、平成28年1月から12月における音楽ビデオを含む音楽ソフトの生産実績は前年同期比97%(以上、一般社団法人日本レコード協会調べ)となっており、パッケージ市場につきましては未だに縮小傾向が続いております。

このような状況の中、当連結会計年度の売上高は140億2千万円(前年度に比べ5.1%増)となりました。これは主に、市販/配信事業において、アニメ関連作品、ゲームソフトおよびアーティストマネジメント関連事業の売上が好調に推移したことなどによるものであります。

損益につきましても、前述の売上の増加に加え、市販/配信事業における利益率の高い過年度発売作品の売上が堅調に推移したことなどにより、営業利益は18億8千6百万円(前年度は営業利益12億円)、経常利益は18億5千3百万円(前年度は経常利益12億1千3百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益は16億5千5百万円(前年度は親会社株主に帰属する当期純利益9億7千3百万円)となりました。

セグメントの業績の概況は、次のとおりであります。

〔市販/配信事業〕

アニメ関連作品、ゲームソフトおよびアーティストマネジメント関連事業の売上が好調に推移したことなどにより、売上高は113億7千9百万円(前年度に比べ13.6%増)となりました。損益につきましても、前述の売上の増加に加え、利益率の高い過年度発売作品の売上が堅調に推移したことなどにより、営業利益は24億9千1百万円(前年度は営業利益15億8千2百万円)となりました。

主な作品といたしましては、「氷川きよし」のヒットシングル“みれん心”をはじめ、「松山千春」自身が選曲を行った60曲収録のベストアルバム“松山千春の系譜”、15年ぶりに再集結の「THE YELLOW MONKEY」が15年9ヶ月ぶりに発売した通算25枚目のシングル“砂の塔”、2月に日本武道館単独公演を大成功させた「04 Limited Sazabys」のセカンドメジャーアルバム“eureka”、“THE IDOLM@STER”シリーズ、“動物戦隊ジュウオウジャー”シリーズ、ほんわかキャラクター「すみっこぐらし」がみんなで村へやってくる、村づくりを始めるニンテンドー3DSソフト“すみっこぐらし むらをつくるんです”などの自社制作作品が、売上に貢献いたしました。

〔特販/通販事業〕

前期好調であった利益率の高い音源使用にかかる売上の減少などにより、売上高は17億9千1百万円(前年度に比べ14.2%減)となりました。営業利益は8億8千5百万円(前年度は営業利益11億3千5百万円)となりました。

〔その他〕

昨年、米国における連結子会社に対する出資の全持分を譲渡したこと、および他社作品の販売受託事業における売上が減少したことなどにより、売上高は8億4千9百万円(前年度に比べ31.2%減)となり、営業利益は3億1百万円(前年度は営業利益3億7千万円)となりました。

当社グループは、依然として市場が低迷しているパッケージ商品に依存している状況からの脱却を図るため、新規事業強化への構造改革が急務であるという認識に基づき、成長分野への経営資源の集中投下を行っており、アーティストマネジメント関連事業など一部に事業規模拡大の兆しも出てまいりましたが、未だ事業の開発段階であります。

このように、様々なジャンルのアーティスト発掘・育成を行い、各アーティストの特性を活かした様々な音楽関連商品やサービスの開発・提供を強化していくため、マネジメント事業部において、いわゆる360°ビジネスによる収益確立に向けた取り組みを加速いたしております。

なお、今後も、フェイス・グループの一員として戦略的パートナーシップを構築していくことにより、グループ全体で注力するアーティストの育成や様々な音楽関連サービスを充実させるとともに、グループ一丸となって音楽業界にイノベーションを起こすべく事業にまい進してまいります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動の結果、増加した資金は21億6千5百万円(前連結会計年度は14億6千2百万円の資金の増加)となりました。これは主として、税金等調整前当期純利益の増加によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動の結果、減少した資金は4億8千2百万円(前連結会計年度は2億4千8百万円の資金の減少)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動の結果、減少した資金は2億9千7百万円(前連結会計年度は2億6千3百万円の資金の減少)となりました。

以上の結果、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ13億8千4百万円増加(前連結会計年度末は9億5千1百万円の増加)し、59億2千7百万円(前連結会計年度末は45億4千2百万円)となりました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

開示対象となる生産実績はありませんので、記載を省略しております。

(2) 受注状況

当社および連結子会社は見込生産を主体としており、受注状況は記載しておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
市販/配信	11,379	13.6
特販/通販	1,791	△14.2
その他	849	△31.2
合計	14,020	5.1

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
(株) 星光堂	1,526	11.4	1,926	13.7
Amazon.com Int'l Sales, Inc.	1,734	13.0	1,730	12.3

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中には、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は有価証券報告書提出日現在において判断したものであります。

当社を親会社とするコロムビアグループは、株主、顧客、取引先その他すべての人々にとって価値ある企業であるために、グループ一丸となって、経営の効率化と収益性の向上を目指した事業活動を推進するとともに、将来の成長に向け新規事業へ積極的に展開してまいります。

当社グループは、利益を安定的に計上できる体質にすることを最大の経営課題にしており、今後も継続して得意分野、成長分野へ経営資源を集中投下してまいります。音楽、映像関連業界の厳しい環境下において、当社の中核である音楽制作を中心とした市販／配信事業、制作した音源を活用した特販／通販事業および両事業から派生する新規事業に経営資源を集中することにより、さらに事業効率を高め、収益性を向上させてまいります。

今後も、フェイス・グループの一員として、注力するアーティストの育成や様々な音楽関連サービスを充実させるとともに、グループ一丸となって音楽業界にイノベーションを起こすべく事業にまい進してまいります。

各部門の取り組みは次のとおりです。

〔市販／配信事業〕

演歌・歌謡曲部門：

デビュー18年目を迎えた「氷川きよし」は、第58回日本レコード大賞で“みれん心”が優秀作品賞を受賞するなどますます活動を充実させております。今後とも、演歌アーティストNo. 1の地位を不動のものにするため、高く評価される作品をリリースしてまいります。また、平成29年3月期は、大ヒット企画「なかにし礼&女優」シリーズ第2弾「なかにし礼と13人の女優たち」が大変なご好評をいただくことができました。引き続き、企画商品の充実等に取り組んでまいります。「舟木一夫」、「都はるみ」、「大川栄策」、「細川たかし」、「冠二郎」、「新沼謙治」、「クミコ」をはじめとするベテランアーティスト、中堅の「多岐川舞子」、「田川寿美」、「大石まどか」、「山崎ていじ」、若手の「走裕介」、「村木弾」など多彩な才能を活かした作品づくりに取り組んでまいります。

ジャズ・クラシック・インターナショナル部門：

クラシック、ジャズ、クロスオーバー(クラシック・ジャズ・ポップスといったジャンルの垣根を越えて音楽性を融合させた作品ジャンル)、洋楽など多様なジャンルの作品を制作しております。「上妻宏光」などの実績のあるアーティストの作品のさらなる拡充とともに、各方面から注目を集める天才ピアニスト「反田恭平」、新しい世代を担うサクソフォン奏者「上野耕平」、華麗なる平成の双子ソプラノデュオ「山田姉妹」など才能ある若手アーティストの確実なステップアップによるアーティストロスターの充実、クラシックカタログを活用したコンピレーション企画およびアーティスト活動と連動したライブ・コンサートの企画、主催、運営などに取り組んでまいります。今後も、音楽を様々な形で伝える機会を提供してまいります。

アニメ部門：

“THE IDOLM@STER”シリーズ、スーパー戦隊シリーズが大変なご好評をいただいております。今後も引き続き“THE IDOLM@STER”シリーズおよびスーパー戦隊シリーズ41作品目の“宇宙戦隊キュウレンジャー”を核とし、ヒットに向けて重点的にプロモートしてまいります。また、「内田彩」、「村川梨衣」など人気声優の育成に取り組んでまいります。さらに、“この素晴らしい世界に祝福を!”をはじめとするテレビアニメ番組や劇場公開アニメ作品への共同事業参画を通じて、主題歌作品のリリースおよび権利獲得などに積極的に取り組んでまいります。

エデュケーショナル部門：

“いないいないばあっ!”シリーズ、“みつけた!”シリーズなどNHK教育番組のCD・DVDがファミリー層から大変なご支持をいただいております。教科書販売会社、幼稚園・保育園向け商材の販売会社との連携のもとタイアップ商品の開発に取り組んでまいります。また、全国各地で開催しております幼稚園・保育園・小学校の先生方を対象としたダンス実技講習会「コロムビア・キッズダンス講習会」事業をさらに発展させてまいります。

邦楽部門：

伝統的純邦楽、民謡を中心に、落語作品なども強化を行うとともにSP音源復刻をはじめとする史料価値の高い企画作品にも引き続き取り組んでまいります。

J-POP部門：

16年ぶりの全国ツアーを成功させた「THE YELLOW MONKEY」をはじめ、「松山千春」、「9mm Parabellum Bullet」などの人気アーティストのファン層の一層の拡大を図ると共に、「グッドモーニングアメリカ」、「Czecho No Republic」、「NakamuraEmi」などの注力アーティストの育成の他、「04 Limited Sazabys」をはじめとするアーティストマネジメント事業についても、各種オーディション施策を講じるにより、積極的に展開してまいります。さらに、「I Don't Like Mondays.」などのフェイス・グループ全体で注力するアーティストの育成により、グループ間の事業シナジーの実現を加速してまいります。

ゲーム部門：

“すみっこぐらし”シリーズ、“あこがれガールズコレクション”シリーズがご好評をいただき、今もなお根強い人気を誇っております。今後も流行やニーズを的確に読み取り、人気キャラクターのゲーム化などニンテンドー3DSマシンの低年齢層への浸透に合わせた商品ラインナップの充実を図ってまいります。

〔特販／通販事業〕

特販事業：

引き続きマーケット別に取引先との関係を強化するとともに、新規販売チャネル、新規取引先の開拓を進めてまいります。また、当社の豊富なコンテンツを有効活用することにより、シニア向け、団塊世代向けの商品をはじめとする企画商品を充実させ、音源の多角的事業展開を図ってまいります。

通販事業：

ホームページをリニューアルしたことにより、サービスの利便性を向上させております。今後もラインアップの最適化に努め、充実したサービスの提供に取り組んでまいります。また、当社の親会社である株式会社フェイスと共同開発した「受注」「決済」「配送」などの通販事業業務を一貫して効率的に運用できるフルフィルメントシステムにより、効率的に事業を展開しております。今後も、提携企業と共同でのCD・DVD商品の企画・制作や顧客ニーズを勘案した生活雑貨分野の商品企画などに取り組んでまいります。

4 【事業等のリスク】

以下においては、当社グループの事業その他に関するリスクについて、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、必ずしもそのようなリスクに該当しない事項についても、投資者の投資判断上、重要であると考えられる事項については、投資者に対する積極的な情報開示の観点から以下に記載しております。なお、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避および発生した場合の対応に努める所存であります。文中には、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は有価証券報告書提出日現在において判断したものであります。

①経済状況および市場環境

当社グループの主要な事業であるCD・DVD等の音楽・映像ソフト等の市販/配信事業および特販/通販事業は、製品を販売している地域・国での経済状況の影響を受けるほか、当社グループの製品の多くは、消費者にとって必ずしも必要不可欠なものとはいえず、市場の動向・消費者の嗜好・消費行動に大きく左右されます。このため、景気の後退、消費支出の縮小などにより音楽、映像関連産業全般の需要が減少する場合には、当社グループの経営成績および財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。違法コピー、違法ダウンロードなどの増加は、音楽・映像ソフトなどの販売が落ち込んできている要因の一つとみられており、音楽、映像関連産業全般の規模も縮小傾向にあるのが現状です。音楽、映像関連産業は縮小した市場で競争が激化しており、当社事業の売上・利益にも多大な影響があります。近年デジタル音楽配信の利用が一般化しており、当社グループはこの分野にも力を入れておりますが、この市場の拡大により音楽CDをはじめとする当社製品に売上減少の影響が生じる可能性があります。昨今の著作権法改正により、違法複製物のダウンロード自体が禁止され、違法ダウンロードの減少が期待されますが、違法な配信サイトからの違法ダウンロードが依然として高水準にあると思われ、これが売上に影響を及ぼすおそれがあります。さらに、音楽市場においては、定額制音楽配信サービスが普及するなど、価格競争が激化しており、業績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

②音楽作品・アーティスト

当社グループの事業の収益の多くは、人気のあるアーティストによるヒット作品の創出に依拠しており、当社グループの経営の安定および成長は、ヒットが見込めるアーティスト・音楽作品の創出に依存しております。当社グループは今後もお客様に受け入れられる新たなアーティストの発掘・開発をすすめていきますが、ヒット作品の創出は、消費者の嗜好・流行など複雑かつ不確実な要素があるため、ヒット作品の有無が、業績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

③業績計画

当社グループの売上および利益は、固定的かつ継続的に発生する収入の比率が低く、主として個々の音楽作品の販売状況により大きく左右されます。販売状況は、時代の流行や消費者の嗜好などさまざまな要因によって変化することから、過去の実績などから予測した販売予想を下回り、予定された業績計画が達成できない場合があります。また、音楽作品は、アーティスト、プロダクション、製造販売受託先などの事情により、その制作が延期・中止されることがあり、当初の業績計画を下回る要因となる場合があります。このため、売上の見込みなど業績の予測が難しく、特定の四半期の収益の落ち込みなどが、業績計画を変更させ、経営成績に影響を与える可能性があります。また、製造販売受託事業においては、取引先の事情から委託先が当社グループから他社へ変更されることがあり、当初の業績計画を下回る要因となる場合があります。

④再販売価格維持制度・還流防止措置

音楽CD・新聞・書籍などの著作物は、独占禁止法で法定再販物として再販売価格維持制度（“再販制度”）が認められています。同制度が永続的に存続する保証はありませんが、公正取引委員会は同制度を当面存置することが相当であるとの見解を公表しております。また、アジア地域などで販売する目的でライセンス契約に基づき現地生産された音楽CDを、我が国に輸入し安価に販売する行為に対して、著作権者等の利益を保護するため近年著作権法が改正され、海外で頒布する目的で生産された商業用レコードの輸入を一定の要件の下で禁止する、いわゆる還流防止措置が導入されています。今後、独占禁止法や著作権法の見直しがあった場合には、売上減少などの影響が生じる可能性があります。

⑤返品

音楽CDなどの製品については再販制度がとられているため、小売店が自由に販売価格の設定ができないことから、小売店は製品を一定の範囲内で返品できる商慣行があります。このため、販売不振の製品については将来返品されるものがあります。当社グループは過去の返品実績などを基に適正に返品調整引当金の計上を行い、これに備えておりますが、予想外の販売不振などによる返品が発生した場合には、売上の減少・利益の減少など業績に影響が生じる可能性があります。

⑥著作権

当社グループが権利を有する著作権、著作隣接権などの知的財産権は、当社グループが行う事業における強みとなっております。しかしながら、販売する楽曲や権利保有する楽曲などについて、第三者から権利を侵害される可能性や、また当社グループが意図せずに第三者の権利を侵害する可能性があります。このような著作権などに関する侵害は、業績および財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑦年金制度

当社グループは、受給者向けには確定給付企業年金制度を、従業員向けには退職一時金制度と確定拠出年金制度を併用した年金制度を設けておりますが、将来、年金資産の運用利回りが低下した場合や、退職給付債務を計算する前提となる数理上の前提・仮定に変更があった場合には、退職給付債務や退職給付費用が増加し、業績および財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑧個人情報の流出

個人情報の保護に関して、社内体制の整備と社員のコンプライアンス意識の浸透を目的として、個人情報保護方針を制定するとともに、社内教育や情報システムのセキュリティ対策などを実施し、細心の注意を払っています。しかしながら、なんらかの事情により、個人情報が流出した場合には、社会的信用を失墜させ、業績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

⑨事業整理

当社グループは事業の見直しを適宜実施しており、これによって関連する資産の売却・処分を決定し実施した場合には損失が発生する可能性があります。他方、当社グループは他社との事業提携などを積極的に検討しておりますが、かかる事業提携などが当社グループの業績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

(1) レコード原盤供給契約(提出会社)

下記相手方よりレコード原盤の供給を受け、音楽配信、コンパクトディスク、ミュージックテープおよびDVD等の複製販売をし、対価としてのロイヤルティを支払っております。

(株)NHKエデュケーショナル

また、下記相手先と共同にて原盤を制作し、音楽配信、コンパクトディスク、ミュージックテープおよびDVD等の複製販売をし、対価としてのロイヤルティを支払っております。

(株)長良音楽出版、(株)ソニー・ミュージックアーティスト、東映(株)、

(株)テレビ朝日ミュージック、(株)フジパシフィックミュージック、東映アニメーション音楽出版(株)、

(株)小学館ミュージックアンドデジタルエンタテインメント、(株)フェイス、

(株)バンダイナムコエンターテインメント

(2) 株式交換契約(提出会社)

当社および株式会社フェイス(以下「フェイス」といいます。)は、平成29年3月28日開催のそれぞれの取締役会において、フェイスを株式交換完全親会社とし、当社を株式交換完全子会社とする株式交換を行うことを決議し、同日両社間で株式交換契約を締結いたしました。

本株式交換契約は、平成29年6月23日に開催した定時株主総会の決議により承認を受けております。

詳細につきましては、「第5〔経理の状況〕 1〔連結財務諸表等〕 (1)〔連結財務諸表〕 〔注記事項〕 (重要な後発事象)」をご覧ください。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において判断したものであります。

(1) 重要な会計方針および見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたりまして、決算日における資産・負債の報告数値および報告期間における収益・費用の報告数値に影響を与える見積りおよび判断に対しては、継続して評価を行っております。

見積りおよび判断については、過去の実績や様々な状況に応じて、合理的であると考えられる要因等に基づき行っておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は異なる場合があります。特に以下の重要な会計方針が、当社グループの連結財務諸表の作成において行われる見積りと判断に大きな影響を及ぼすと考えております。

① 収益の認識

市販事業における製品に係る売上高は、製品がレコード特約店等に出荷された時点で認識し、総売上高から返品高を控除した純売上高を計上しております。

② 売上原価

原盤制作費

録音費、アーティスト印税、他社所有原盤権使用料などの原盤制作費は、関連作品に係る売上高を認識するまで資産計上し、同時点で原価に計上しております。関連作品の売上予定が無くなったと判断した場合、資産計上されていた原盤制作費は、その事由が判明した時点で全額原価として処理しております。

前払費用

前払費用にはアーティストに支払う契約金や前払印税が含まれております。

契約金は契約期間に対応して償却を行っており、前払印税は売上高に対応して原価計上し、また個々のアーティストの過去の作品の販売実績等に基づく販売見込み額を勘案し、予想される将来の売上高に対応して原価計上しております。

③ 返品制度と返品調整引当金

著作権保護の観点から著作物であるCD等に関しては、レコード会社が市場での販売価格を定め、小売店が決められた定価で販売する再販売価格維持制度が定められております。これを背景として、一般にレコード会社と特約店等との販売契約において、レコード会社に製品を返品することができる旨約定されております。このため当社は将来の返品に備えて、過去の返品実績に基づく合理的な見積りにより算出した返品調整引当金を計上しております。

④ 貸倒引当金

当社グループは、債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。なお、取引先の財政状態が悪化し、その支払能力が低下した場合、追加引当が必要となる場合があります。

⑤ 退職給付に係る会計処理

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上し、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用を退職給付に係る調整累計額として計上しております。

当社および一部の子会社においては、受給者向けには確定給付企業年金制度を、従業員向けには退職慰労金支給規程に基づく退職一時金制度と確定拠出年金制度を併用した年金制度を採用しております。

退職給付費用および退職給付債務は数理計算上で設定される前提条件に基づいて算出されております。これらの前提条件には、割引率、将来の報酬水準、退職率、死亡率および年金資産の期待収益率などが含まれております。割引率は安全性の高い長期の債券の利回りを基礎として決定しており、年金資産の期待収益率は年金資産が投資されている資産の種類毎の長期期待収益率に基づいて算出しております。将来、年金資産の運用利回りが低下した場合や、退職給付債務を計算する前提となる数理上の前提・仮定に変更があった場合には、退職給付債務や退職給付費用が増加し、影響を及ぼす可能性があります。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度に比べ5.1%増加し140億2千万円、営業利益は18億8千6百万円(前年度は営業利益12億円)、経常利益は18億5千3百万円(前年度は経常利益12億1千3百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益は16億5千5百万円(前年度は親会社株主に帰属する当期純利益9億7千3百万円)となりました。

① 売上高

連結売上高は、市販/配信事業において、アニメ関連作品、ゲームソフトおよびアーティストマネジメント関連事業の売上が好調に推移したことなどに、140億2千万円(前年度に比べ5.1%増)となりました。

② 売上原価、販売費及び一般管理費

売上原価は、前連結会計年度に比べ1.2%増加し76億7千9百万円となり、売上高に対する売上原価の比率(原価率)は、前連結会計年度に比べ2.0ポイント減少し、54.8%となりました。また、販売費及び一般管理費は、前連結会計年度に比べ2.3%減少し44億5千4百万円となりました。

③ 営業利益

以上の結果、営業利益は18億8千6百万円(前年度は営業利益12億円)となりました。

④ 営業外収益および営業外費用

営業外収益は、未払印税整理益が増加したことなどにより前連結会計年度に比べ14.4%増加し3千1百万円となりました。営業外費用は、株式交換関連費用を計上したことなどにより前連結会計年度に比べ346.3%増加し6千4百万円となりました。

⑤ 経常利益

以上の結果、経常利益は18億5千3百万円(前年度は経常利益12億1千3百万円)となりました。

⑥ 特別利益および特別損失

特別利益は前連結会計年度の1千5百万円から2千9百万円となりました。また、特別損失は前連結会計年度から8千3百万円の減少となりました。これは主として、前連結会計年度において海外事業整理損などを計上したことなどによるものであります。

⑦ 税金等調整前当期純利益

以上の結果、税金等調整前当期純利益は18億8千3百万円(前連結会計年度は税金等調整前当期純利益11億4千6百万円)となりました。

⑧ 法人税等

法人税等は、前連結会計年度の1億7千2百万円から2億2千7百万円となりました。また、税効果会計適用後の法人税等の負担率は、前連結会計年度の15.1%から12.1%になりました。

⑨ 親会社株主に帰属する当期純利益

以上の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は16億5千5百万円(前連結会計年度は親会社株主に帰属する当期純利益9億7千3百万円)となりました。

(3) 資本の財源および資金の流動性についての分析

キャッシュ・フローの状況につきましては、「第2〔事業の状況〕1〔業績等の概要〕(2)キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資の総額は20百万円ですが、資産を事業セグメント別に配分しておりませんので、セグメントごとの設備投資については記載しておりません。

なお、重要な設備の除却または売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

提出会社

平成29年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械及び 装置	工具、 器具及び 備品	リース 資産	合計	
本社所在部門 (東京都港区)	—	事務所内装及びパソコン機器 等	83	14	53	3	155	165

(注) 1 金額は帳簿価額によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 資産を事業セグメント別に配分しておりませんので、セグメントごとの設備の内容については記載しておりません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

当社グループの設備計画は原則的に連結会社各社が個別に策定しておりますが、グループ全体で重複投資とならないよう、提出会社を中心に調整を図っております。

なお、重要な設備の新設等の計画はありません。

(2) 重要な設備の除却等

重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種 類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

② 【発行済株式】

種 類	事業年度末現在 発行数(株) (平成29年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内 容
普通株式	13,512,870	13,512,870	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 単元株式数：100株
計	13,512,870	13,512,870	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

当社は、会社法第236条、第238条および第239条の規定に基づき新株予約権を発行しております。

(第17回新株予約権)

株主総会の特別決議日(平成18年6月28日)・取締役会決議日(平成19年5月15日)		
	事業年度末現在 (平成29年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成29年5月31日)
新株予約権の数	200個(注)1	—
新株予約権のうち自己新株予約権の数	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	—
新株予約権の目的となる株式の数	10,000株	—
新株予約権の行使時の払込金額	2,140円(注)2	—
新株予約権の行使期間	平成19年7月15日から 平成29年5月14日まで	—
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価額及び資本組入額	発行価額 2,140円 資本組入額 (注)3	—
新株予約権の行使の条件	(注)4	—
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)5	—
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に 関する事項	(注)6	—

(第22回新株予約権)

株主総会の特別決議日(平成21年6月24日)・取締役会決議日(平成21年6月24日)		
	事業年度末現在 (平成29年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成29年5月31日)
新株予約権の数	240個(注)1	240個(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同 左
新株予約権の目的となる株式の数	12,000株	12,000株
新株予約権の行使時の払込金額	760円(注)2	同 左
新株予約権の行使期間	平成21年8月1日から 平成31年6月30日まで	同 左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価額及び資本組入額	発行価額 760円 資本組入額 (注)3	同 左
新株予約権の行使の条件	(注)4	同 左
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)5	同 左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に 関する事項	(注)6	同 左

(注) 1 新株予約権1個につき目的たる株式数は、50株であります。

- 2 当社が株式分割または株式併合を行う場合には、1株当たりの行使価額を次の算式により調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り捨てます。但し、第18回新株予約権については、調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げます。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

上記の他、新株予約権発行日後に、当社が他社と合併する場合、会社分割を行う場合、その他これらの場合に準じ、行使価額の調整を必要と認める場合には、必要かつ合理的な範囲で、当社の取締役会が1株当たりの行使価額を適切に調整できるものとしします。

- 3 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げるものとしします。
- 4 新株予約権の行使の条件は、次のとおりであります。
- (1) 本新株予約権は、付与される新株予約権の個数の一部につき、これを行使することができるものとしします。各新株予約権の一部行使は、その目的たる株式の数が当社の1単元の株式数の整数倍となる場合限り、これを行うことができます。
- (2) その他の詳細や制限等は、株主総会及び取締役会決議に基づき、当社及び被割当事者間で締結される新株予約権割当契約書に定めるところによるものとしします。
- 5 本新株予約権の譲渡については、当社取締役会の承認を要するものとしします。
- 6 当社が吸収合併消滅会社となる吸収合併、当社が新設合併消滅会社となる新設合併、当社が吸収分割会社となる吸収分割、当社が新設分割会社である新設分割、当社が株式交換完全子会社となる株式交換または当社が株式移転完全子会社である株式移転を行う場合には、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画に従い、本新株予約権に代えて、当該合併後存続する株式会社、当該合併により設立する株式会社、当該吸収分割に際して吸収分割会社の事業に係る権利義務を承継する株式会社、当該新設分割により設立する株式会社、当該株式交換により株式交換完全親会社となる株式会社または株式移転により設立する株式会社の新株予約権が交付されることがあります。
- この場合に、交付されうる新株予約権の条件は、以下に定めるとおりとしします。
- (a) 新株予約権の目的である株式
合併後存続する株式会社、合併により設立する株式会社、吸収分割に際して吸収分割会社の事業に係る権利義務を承継する株式会社、新設分割により設立する株式会社、株式交換により株式交換完全親会社となる株式会社または株式移転により設立する株式会社の同種の株式
- (b) 新株予約権の目的である株式の数
合併、会社分割、株式交換または株式移転の比率に応じて調整します。
調整の結果、新株予約権を行使した新株予約権者に交付する株式の数に1株に満たない端数が生じる場合、これを切り捨てます。
- (c) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額(行使価額)
合併、会社分割、株式交換または株式移転の比率に応じて調整します。
調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げます。

- (d) 新株予約権を行使することができる期間、新株予約権の行使の条件、会社が新株予約権を取得することができる事由等
吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めます。
- (e) 譲渡による新株予約権の取得の制限
新株予約権の譲渡による取得については、新株予約権を交付する会社の取締役会の承認を要します。
- 7 平成25年10月1日付で普通株式およびA種優先株式につき20株を1株とする株式併合を行ったため、新株予約権の目的となる株式の数、新株予約権の行使時の払込金額ならびに新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価額及び資本組入額は、株式併合の割合を基に調整しております。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年10月1日 (注)1	△249,312	13,121	—	1,000,000	—	—
平成25年10月3日 (注)2	391	13,512	—	1,000,000	—	—

- (注) 1 当社の発行する普通株式およびA種優先株式につき20株を1株とする株式併合を行ったことによる減少であります。
- 2 平成25年10月2日付で当社の発行するA種優先株式の取得請求期限が到来したことにより、翌日付でA種優先株式3,846千株すべてを一斉取得し、消却するとともに、取得の対価として普通株式4,237千株を交付したことによる増加であります。

(6) 【所有者別状況】

普通株式

平成29年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	19	28	70	33	7	4,569	4,726	—
所有株式数 (単元)	—	11,243	4,265	76,358	10,145	24	30,968	133,003	212,570
所有株式数 の割合(%)	—	8.45	3.21	57.41	7.63	0.02	23.28	100.00	—

- (注) 自己株式25,550株は「個人その他」に255単元及び「単元未満株式の状況」に50株含めて記載しております。
なお、自己株式の実保有高25,550株は、株主名簿記載上の株式数と同一であります。

(7) 【大株主の状況】

平成29年3月31日現在

氏名又は名称	住 所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社フェイス	京都府京都市中京区烏丸通御池下る虎屋町 566-1 井門明治安田生命ビル	6,875	50.88
RMB JAPAN OPPORTUNITIES FUND, LP.(常任代理人 香港上海銀行 東京支店)	115 S, LASALLE STREET, 34TH FLOOR, CHICAGO, IL 60603 (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	740	5.48
株式会社第一興商	東京都品川区北品川5丁目5-26	622	4.61
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	228	1.69
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口1)	東京都中央区晴海1丁目8-11	146	1.08
楽天証券株式会社	東京都世田谷区玉川1丁目14番1号	137	1.02
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	128	0.95
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4-1	125	0.93
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口2)	東京都中央区晴海1丁目8-11	118	0.88
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1丁目8-11	109	0.81
計	—	9,232	68.32

(注) 1 上記大株主の状況は、平成29年3月31日現在の株主名簿に基づくものであります。

2 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 118千株

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 99 "

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 25,500	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,274,800	132,748	同上
単元未満株式	普通株式 212,570(注)1	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	13,512,870	—	—
総株主の議決権	—	132,748	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式50株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
(自己保有株式) 日本コロムビア株式会社	東京都港区虎ノ門四丁目1 番40号	25,500	—	25,500	0.19
計	—	25,500	—	25,500	0.19

(9) 【ストックオプション制度の内容】

① 当社は、新株引受権方式によるストックオプション制度を採用しておりましたが、すべて失効いたしました。

なお、当該制度は、旧商法第280条ノ19第1項および当社定款旧第7条の規定に基づき、当社取締役および使用人の一部に対して付与することを平成14年1月30日開催の臨時株主総会において特別決議されたものであります。

② 当社は、新株予約権方式によるストックオプション制度を採用しております。

当該制度は、旧商法第280条ノ21の規定に基づき、平成17年6月29日の定時株主総会において、また、会社法第236条、第238条および第239条の規定に基づき、平成18年6月28日、平成21年6月24日開催の定時株主総会において、株主以外の者に対して特に有利な条件をもって新株予約権を発行することにつき、特別決議されたものであります。

なお、旧商法第280条ノ21の規定に基づき平成14年6月27日、平成15年6月27日、平成16年6月29日、平成17年6月29日の定時株主総会において、また、会社法第236条、第238条および第239条の規定に基づき平成18年6月28日、平成19年6月29日、平成20年6月25日開催の定時株主総会において、株主以外の者に対して特に有利な条件をもって新株予約権を発行することにつき特別決議され、発行された第1回～第15回新株予約権および第18回～第21回新株予約権は、すべて失効いたしました。

当該制度の内容は、次のとおりであります。

決議年月日	平成18年6月28日
付与対象者の区分及び人数	当社執行役(12名)
株式の種類	普通株式
株式の数(※)	69,000株
新株予約権の行使時の払込金額	(2)〔新株予約権等の状況〕第17回新株予約権に記載しております。
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)2

(※) 平成29年3月31日現在におきましては、付与対象者は退職により10名減少し、2名であり、新株発行予定数は、59,000株失効し、10,000株であります。なお、第16回新株予約権はすべて失効いたしました。

決議年月日	平成21年6月24日
付与対象者の区分及び人数	当社執行役(4名) 当社使用人(3名) 当社取引先(1社)
株式の種類	普通株式
株式の数(※)	53,500株
新株予約権の行使時の払込金額	(2)〔新株予約権等の状況〕第22回新株予約権に記載しております。
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)2

(※) 平成29年3月31日現在におきましては、付与対象者はコンサルティング契約終了に関する契約に基づき1社、退職により3名減少し、4名であり、新株発行予定数は、41,500株失効し、12,000株であります。なお、第23回新株予約権はすべて失効いたしました。

(注)1 本新株予約権1個当たりの行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める本新株予約権を行使した新株予約権者に交付する当社普通株式1株当たりの価額(以下「行使価額」といいます。)に付与株式数を乗じた金額とします。

行使価額は、新株予約権の発行に関する取締役会決議の日を含む前3ヶ月の各日の東京証券取引所における当社株式普通取引の終値のいずれかとします。

なお、当社が株式の併合または分割をする場合、以下に定める算式により、行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り捨てます。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{株式の併合または分割の比率}}$$

上記の他、本新株予約権の割当日後に、当社について株式または新株予約権の無償割当て、合併、会社分割その他これらに準じる事象が発生した場合で、行使価額の調整を必要と認める場合には、必要かつ合理的な範囲で、当社の取締役会が行使価額を適切に調整することができます。

2 当社が吸収合併消滅会社となる吸収合併、当社が新設合併消滅会社となる新設合併、当社が吸収分割会社となる吸収分割、当社が新設分割会社である新設分割、当社が株式交換完全子会社となる株式交換または当社が株式移転完全子会社である株式移転を行う場合には、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画に従い、本新株予約権に代えて、当該合併後存続する株式会社、当該合併により設立する株式会社、当該吸収分割に際して吸収分割会社の事業に係る権利義務を承継する株式会社、当該新設分割により設立する株式会社、当該株式交換により株式交換完全親会社となる株式会社または株式移転により設立する株式会社の新株予約権が交付されうることがあります。

この場合に、交付されうる新株予約権の条件は、以下に定めるとおりとします。

(a) 新株予約権の目的である株式

合併後存続する株式会社、合併により設立する株式会社、吸収分割に際して吸収分割会社の事業に係る権利義務を承継する株式会社、新設分割により設立する株式会社、株式交換により株式交換完全親会社となる株式会社または株式移転により設立する株式会社の同種の株式

(b) 新株予約権の目的である株式の数

合併、会社分割、株式交換または株式移転の比率に応じて調整します。

調整の結果、新株予約権を行使した新株予約権者に交付する株式の数に1株に満たない端数が生じる場合、これを切り捨てます。

(c) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額(行使価額)

合併、会社分割、株式交換または株式移転の比率に応じて調整します。

調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げます。

(d) 新株予約権を行使することができる期間、新株予約権の行使の条件、会社が新株予約権を取得することができる事由等

吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めます。

(e) 譲渡による新株予約権の取得の制限

新株予約権の譲渡による取得については、新株予約権を交付する会社の取締役会の承認を要します。

3 平成25年10月1日付で普通株式およびA種優先株式につき20株を1株とする株式併合を行ったため、新株予約権の目的となる株式の数は、株式併合の割合を基に調整しております。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	977	576
当期間における取得自己株式	482	327

(注) 当期間における取得自己株式には、平成29年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	25,550	—	26,032	—

(注) 当期間における保有自己株式には、平成29年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、安定した配当の維持を基本とし、将来の事業展開に備え内部留保の充実を図りつつ、業績および今後の見通しなどを総合的に勘案し、配当を行うことをその方針としております。

当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本的な方針としており、配当の決定機関は取締役会であります。また、当社は会社法第459条の規定に基づき、取締役会の決議によって剰余金の配当を行うことができる旨を定款に定めております。

当期におきましては、期首の業績予想を上回る利益を計上することができたものの、将来の事業展開、財務体質の強化のため、内部留保の充実を図ることを最優先とすることが適切な経営判断であると考え、誠に遺憾ながら見送らせていただきます。

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

普通株式

回次	第162期	第163期	第164期	第165期	第166期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
最高(円)	58	63 [750]	714	542	733
最低(円)	21	31 [519]	380	346	402

(注) 1 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

2 平成25年10月1日付で普通株式およびA種優先株式につき20株を1株にする株式併合を行ったため、第163期の株価については株式併合前の最高・最低株価を記載し、[]にて株式併合後の最高・最低株価を記載しております。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

普通株式

月別	平成28年10月	11月	12月	平成29年1月	2月	3月
最高(円)	642	733	714	682	720	722
最低(円)	556	574	621	614	641	642

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

男性 8 名 女性 2 名 (役員 の うち 女性 の 比 率 20%)

役 名	職 名	氏 名	生 年 月 日	略 歴	任 期	所 有 株 式 数 (株)
取締役会長	—	平 澤 創	昭和42年3月26日生	平成2年4月 任天堂㈱入社 平成4年10月 ㈱フェイス創業 代表取締役社長 (現任) 平成15年3月 ㈱八創代表取締役 (現任) 平成16年8月 ㈱パソナ取締役 平成19年12月 ㈱パソナグループ取締役 (現任) 平成22年4月 当社取締役 当社取締役会会長 平成22年6月 当社取締役会会長 (現任) 平成26年9月 ㈱GENESIS代表取締役 (現任) 平成26年10月 BIC㈱取締役 (現任) 平成29年3月 ㈱ドリーミュージック取締役会会長 (現任) 平成29年4月 ㈱エンターメディア取締役会会長 (現任) 平成29年5月 ㈱ワクワクワークス取締役会会長 (現任)	(注) 3	4,200
代表取締役社長	—	吉 田 眞 市	昭和43年3月10日生	平成3年4月 伊藤忠商事㈱入社 平成15年1月 ㈱ブロッコリー入社 平成15年5月 同社取締役 平成16年5月 同社常務取締役 平成17年5月 同社代表取締役社長 平成19年6月 ㈱磐梯インベストメンツディレクター 平成21年1月 ㈱フェイス上席執行役員 平成21年2月 ギガネットワークス㈱ (現 ㈱フェイス・ワンダワークス) 取締役 平成21年4月 同社代表取締役社長 平成22年4月 当社取締役 平成22年5月 グッディポイント㈱取締役 平成22年6月 ㈱ウェブマネー代表取締役社長 平成25年6月 当社取締役 ㈱フェイス フェイス・グループ参与 (現任) 平成26年1月 当社代表取締役副社長 当社人事本部長 当社経営戦略室長 当社ゲーム事業担当 コロムビア・マーケティング㈱代表取締役社長 コロムビアソングス㈱代表取締役副社長 平成26年10月 当社経営戦略室担当 平成27年4月 当社代表取締役社長 (現任)	(注) 3	2,750
取締役	最高財務責任者兼 財務・管理本部長	鈴 木 千 佳 代	昭和43年3月16日生	平成3年4月 大和証券㈱入社 平成10年9月 ブライスウォータハウスコーパーズ・コンサルタント㈱入社 平成13年1月 ㈱リップルウッド・ジャパン入社 平成15年12月 当社入社 平成18年6月 当社経営企画部事業開発室室長 平成22年9月 当社経営企画部経営管理・IRグループ担当部長 平成23年4月 当社財務本部副本部長 平成26年1月 当社財務・管理本部副本部長 平成27年4月 当社執行役員 当社財務・管理本部長 (現任) ㈱シーターデザイン代表取締役社長 (現任) 平成27年6月 当社最高財務責任者 (現任) 平成28年6月 当社取締役 (現任)	(注) 3	3,100

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
取締役	—	阿部 三代松	昭和33年10月22日生	昭和56年4月 当社入社 平成14年4月 当社営業本部営業部長 平成16年4月 当社営業本部副本部長 平成21年5月 当社執行役 当社セールス&マーケティング本部長 平成22年6月 当社執行役員 平成24年10月 コロムビア・マーケティング㈱代表取締役社長 平成26年1月 同社取締役 同社営業本部長 平成27年4月 同社代表取締役社長(現任) 平成29年3月 ㈱ドリーミュージック取締役(現任) 平成29年4月 当社上席執行役員 平成29年6月 当社取締役(現任)	(注) 3	1,100
取締役	—	佐伯 次郎	昭和34年6月2日生	昭和58年4月 ㈱熊谷組入社 平成14年6月 当社入社 平成14年10月 当社財務経理本部長 平成15年6月 当社執行役 平成16年6月 当社常務執行役 平成17年6月 当社最高財務責任者 平成19年6月 当社専務執行役 平成22年6月 当社専務取締役 平成23年4月 当社財務本部長 平成24年6月 当社取締役(現任) ㈱フェイス取締役最高財務責任者兼管理本部長(現任) 平成25年12月 ㈱フェイスフューチャーファンド代表取締役社長(現任) 平成26年10月 ㈱オーケーライフ取締役 平成28年10月 ㈱フライングペンギンズ取締役(現任) 平成29年3月 ㈱ドリーミュージック取締役(現任) 平成29年4月 ㈱フェイス・ワンダワークス取締役(現任) ㈱エンターメディア取締役(現任) ㈱Faith Artists Music Entertainment取締役(現任)	(注) 3	2,800
取締役	—	南部 靖之	昭和27年1月5日生	昭和51年2月 ㈱マンパワーセンター(現㈱南部エンタープライズ)設立 同社専務取締役 平成3年4月 同社代表取締役 平成4年3月 ㈱テンポラリーサンライズ(現㈱パソナ)代表取締役 平成8年3月 ㈱ビジネス・コープ(現㈱ベネフィット・ワン)取締役 平成11年4月 ㈱パソナ(現㈱南部エンタープライズ)代表取締役社長 平成12年6月 ㈱パソナ代表取締役グループ代表 平成16年8月 同社代表取締役グループ代表兼社長営業総本部長 平成19年12月 同社代表取締役 ㈱パソナグループ代表取締役グループ代表兼社長(現任) 平成22年6月 ㈱ベネフィット・ワン取締役会長(現任) 平成23年8月 ㈱パソナ代表取締役会長(現任) 平成24年6月 当社取締役(現任)	(注) 3	1,000

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
常勤監査役	—	長吉 晋	昭和32年3月2日生	昭和56年4月 ㈱熊谷組入社 平成15年9月 当社入社 平成17年1月 当社経営企画部長 平成18年4月 当社理事 平成18年6月 当社執行役 平成22年6月 当社常勤監査役(現任) ㈱ウェブマネー監査役 平成23年8月 キャッチメディアジャパン(株)監査役 平成23年9月 ㈱フェイス・ワンダワークス監査役(現任)	(注)4	3,800
監査役	—	菅谷 貴子	昭和47年9月20日生	平成14年10月 弁護士登録(第二東京弁護士会所属) 山田秀雄法律事務所(現山田・尾崎法律事務所)入所(現任) 平成19年6月 ㈱フェイス監査役(現任) 平成22年4月 学校法人桐蔭学園桐蔭横浜大学大学院法務研究科准教授(現任) 平成22年6月 当社監査役(現任) 平成26年9月 トーセイ・リート投資法人監督役員(現任) 平成28年6月 日通商事(株)監査役(現任)	(注)4	3,600
監査役	—	本多 清	昭和16年11月15日生	昭和40年4月 ㈱富士銀行(現㈱みずほ銀行)入行 平成3年7月 同行大阪支店長 平成5年6月 同行取締役大阪支店長兼大阪営業第一部長 平成6年5月 同行取締役 平成6年6月 ㈱タカラ(現㈱タカラトミー)取締役副社長 平成12年6月 日本カーリット(株)常勤監査役 平成18年7月 千秋商事(株)(現ヒューリック(株))監査役 平成19年11月 同社顧問 平成20年6月 ㈱ウェブマネー常勤監査役 平成22年6月 当社監査役(現任) 平成23年6月 ㈱ウェブマネー監査役	(注)4	1,200
監査役	—	水戸 重之	昭和32年5月9日生	平成元年4月 弁護士登録(第一東京弁護士会) 平成2年10月 TMI総合法律事務所の創設に参画 平成11年4月 同事務所パートナー弁護士(現任) 平成14年6月 ㈱タカラ監査役 平成14年12月 ㈱ティール・ワイ・オー監査役 平成18年3月 ㈱タカラトミー監査役 平成18年4月 学校法人早稲田大学スポーツ科学研究科(大学院)講師(現任) 平成18年5月 ㈱プロックリー監査役(現任) 平成18年6月 吉本興業(株)監査役(現任) 平成22年1月 ㈱湘南ベルマーレ取締役(現任) 平成25年12月 国立大学法人筑波大学ビジネス科学研究科(企業法学専攻)講師 平成27年6月 ㈱タカラトミー取締役(現任) 平成28年6月 当社監査役(現任)	(注)5	—
計						23,550

- (注) 1 取締役南部靖之は、社外取締役であります。
2 監査役本多 清、同水戸重之は、社外監査役であります。
3 取締役の任期は、平成29年6月23日から平成30年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
4 監査役の任期は、平成26年6月25日から平成30年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
5 監査役の任期は、平成28年6月24日から平成32年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
6 所有株式数欄に記載されているのはすべて普通株式であります。

- 7 当社では、取締役会の機動性確保、監督機能の強化を図るため、執行役員制度を導入しております。執行役員は以下のとおりです。

執行役員	北條 真	A&C本部コロムビアハウス事業部長 兼 アニメ・ビジネスユニットユニットリーダー
執行役員	山邊 覚	経営戦略室長 兼 デジタル&マーケティング戦略推進プロジェクトプロジェクトリーダー 兼 A&C本部戦略マーケティング統括部副統括部長 兼 Webマーケティング部長 兼 コロムビア・マーケティング株式会社 デジタル&ダイレクトマーケティング統括部長
執行役員	岡野 博行	A&C本部レーベル事業部長
執行役員	滝田 洋	財務・管理本部管理統括部長
執行役員	井上 得朗	コロムビア・マーケティング株式会社 特販統括部長
執行役員	森田 寛之	コロムビア・マーケティング株式会社 営業統括部長
執行役員	井上 勝浩	A&C本部レーベル事業部副事業部長 兼トライアド・ビジネスユニットユニットリーダー
執行役員	土門 義隆	A&C本部マネジメント事業部長 兼マネジメント第1・ビジネスユニットユニットリーダー 兼マネジメント第2・ビジネスユニットユニットリーダー

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コロムビアグループの目標は、音楽業界で最もクリエイティブな会社を作ること、なおかつ、最も効率的に運営されている会社を作り上げることです。また、株主、顧客、取引先その他すべての人々にとって価値ある企業であるために、グループ一体となって経営の効率化と収益性の向上をめざした事業活動を推進するとともに、将来の成長に向け新分野、新事業へ積極的に展開してまいります。

株主重視の経営にとって、適正で迅速な経営を行うための仕組みの整備は最重要課題であります。

当社は平成22年6月23日開催の定時株主総会の決議により、監査役会設置会社として運営しております。当社といたしましては、コンプライアンスの徹底を図るとともに、独立した見地から適正な監督・監査を行うために社外取締役、社外監査役を選任し、また、執行役員制度を導入するなど、経営の効率化、透明性を確保し、適正かつ迅速な業務執行を行うことにより、コーポレート・ガバナンスを強化し、業務執行に対する監督、監査の実効性を高める体制を構築しております。

さらに、企業活動に関して迅速かつ正確な会社情報の開示を行うために、グループ会社を含め迅速な情報の伝達がなされる体制をとるとともに、社内における情報管理を徹底し、公平な情報開示に努めております。

なお、前期における取締役会、監査役会の開催状況は、取締役会14回、監査役会19回でした。

1) 会社の機関の内容

① 会社の機関の基本的説明

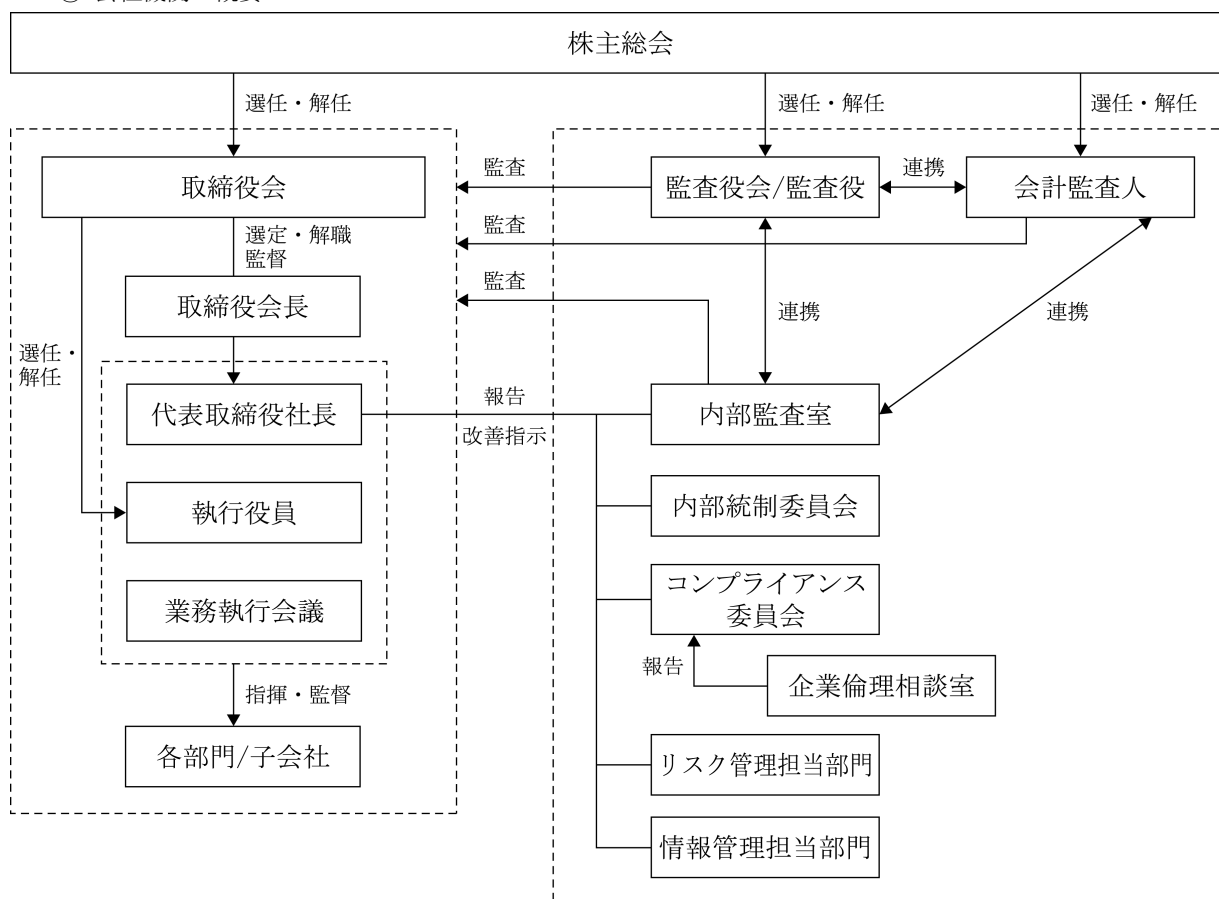
当社は、平成22年6月23日開催の定時株主総会の決議により、監査役会設置会社として運営しております。当社の取締役会は、取締役6名(うち、社外取締役1名)で構成し、法令で定められた事項および経営上の重要事項を審議、決議するとともに、取締役の職務を監督しております。

経営監視機能として監査役制度を採用しており、監査役は常勤監査役1名、非常勤監査役3名の4名(うち、社外監査役2名)で構成され、適法性、適正性の観点から、会計監査人、内部監査室と連携をとりながら、当社およびグループ会社の業務執行を監査しております。なお、社外監査役本多 清は長年にわたり金融機関における業務経験があり、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

また、執行役員制度(執行役員8名)を導入することによりそれぞれの管轄する事業や日常業務のより機動的な執行を図るとともに、隔週で業務執行取締役および執行役員による業務執行会議を開催し、迅速な意思決定ができる体制となっております。

なお、取締役、監査役および執行役員の数に関する記述は、提出日現在のものです。

② 会社機関の概要



③ 内部統制システムの整備の状況

イ コンプライアンスの徹底

- ・コロムビアグループ行動規範を制定し、当社およびグループ会社の各取締役、監査役及び従業員が法令、規則および社内規程・方針を遵守した行動をとるための規範や行動基準を定めるとともに、リスクの未然防止と早期解決のために、社内通報に関する取扱規程により、通報者に不利益が生じないことを確保したうえで、顧問弁護士も含めた複数の担当者を通報先とする社内通報制度を設置し、コンプライアンスの推進を図ります。なお、社内通報制度により通報された情報は、当社の監査役に報告されるものとします。また、代表取締役社長を委員長とし、法務担当部門長などで構成されるコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス体制の構築・運営に必要な事項を調査、検討、検証するとともに、啓蒙活動を実施いたします。
- ・当社およびグループ会社は、社会の一員として市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断します。

ロ 経営の効率性、透明性を確保し、適正かつ迅速な業務執行を行う体制

- ・経営環境の変化に応じて最適な経営体制のもとに機動的に運営するため、取締役の任期は1年とします。また、執行役員制度を導入し、取締役会の機動性確保、監督機能の強化を図ります。さらに、業務執行の迅速性を高めるために、業務執行取締役および執行役員などで構成される業務執行会議を設置します。
- ・各グループ会社については、担当部門において、グループ会社と一定の重要事項について協議、情報交換等を行うことを通じて、経営の効率性等の向上を図ります。

ハ 経営監視機能の強化

- ・当社およびグループ会社は、監査役監査の実効性を確保するために、取締役会をはじめ業務執行会議その他の重要な会議への出席により、監査役による取締役の意思決定の過程および業務の執行状況を把握する体制を確保します。また、当社及びそのグループ会社の各取締役、監査役及び従業員は、監査役および監査役会に対する重大な事項の報告をするとともに、重要な決裁書類の回付等の体制の構築、運用を実施します。監査役及び監査役会に対して報告をした者に対しては、不利益が生じないことを確保いたします。さらに、代表取締役社長と監査役は、定期的に会合をもち、経営方針を確認するとともに、会社が対処すべき課題、事業その他に関するリスクのほか、監査役監査の環境整備の状況、監査上の重要課題等について意見交換を行います。

- ・監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合は、これに応じます。
- ・取締役からの独立性および監査役からの指示の実効性を確保するため、監査役は上記使用人の人事について変更を求めることができます。また、当社は、上記使用人の任命、解雇、配転及び人事異動等の雇用条件に関する事項について、監査役の同意を要することとしております。さらに、上記使用人は監査役の指揮命令に従うものとし、取締役及び従業員の指揮命令は受けないものとしております。
- ・現在、上記使用人は置いておりませんが、業務執行部門から独立した代表取締役社長直轄の組織として内部監査室を設置しております。監査役は、年間の監査計画に従って、内部監査室および各部門から定期的に報告を受け、また、適宜指示を出し、監査しております。
- ・監査役は、その職務執行上の必要に応じて、法律・会計等の専門家に自由にアクセスすることができ、その費用は当社が負担することとしております。また、その職務を効果的に遂行するために会計監査人から年間の監査計画の説明を受け、さらに監査結果の報告を含む定期会合を開催し監査役の職務および活動に関連するあらゆる事項について協議いたします。特に、内部監査結果につきましては、全て会計監査人に報告しております。
- ・取締役会による、取締役の業務執行に対する監督、監査の実効性を高めるために、取締役6名のうち社外取締役を1名選任しております。また、監査役4名のうち2名は社外監査役です。
- ・内部監査室が行う内部監査を通じて、適法性および妥当性の観点から検討・評価することにより、不正過誤を防止し、経営の合理化および効率増進を図ります。

ニ グループ会社管理

- ・当社およびグループ会社は、担当部門において、当社グループにおける業務の適正を確保するため、グループ各社における適切な内部統制の構築を目指し、かかる内部統制の実効性を高める施策を実施しております。また、当社は、グループ各社から当該グループ会社の営業成績、財務状況その他の重要な情報について、定期的に報告を受け、必要な指導・支援を実施いたしております。

④ リスク管理体制の整備の状況

リスク管理体制としては、担当部門において、リスクマネジメント機能強化のため、リスクの抽出、把握、予防、対応策の検討を行い、当社およびグループ会社への周知徹底を図っております。また定期的にリスクの状況のモニタリングを行うことにより、事前の予防ならびに発生時の適切な対応ができる体制をとっております。

⑤ 情報の保存・管理に関する体制

当社が取り扱う情報の適正管理の体制および管理方法を定めた情報管理規程に基づき、情報管理統括責任者および各部門の情報管理責任者が情報の記録、保存、管理を行っております。

⑥ 役員報酬等の内容

1 取締役

当社の取締役が受ける報酬等については、代表取締役およびそのほかの取締役(社外取締役を除く)は職責に見合った固定金額報酬と業績計画達成率に応じた業績連動型報酬、社外取締役は職責に見合った固定金額報酬とし、取締役の報酬額を年額9千7百万円以内(うち社外取締役分は1千5百万円以内)といたします。また、社外取締役会長平澤 創につきましては、当社の成長・発展に向けて邁進すべく報酬を辞退する申し出があったため、無報酬といたしております。

なお、取締役の報酬額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まないものといたします。

2 監査役

当社の監査役が受ける報酬等については、職責に見合った固定金額報酬とし、監査役の報酬額を年額2千5百万円以内といたします。

3 役員報酬の金額

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職一時金	
取締役 (社外取締役は除く)	60	44	—	15	—	4
監査役 (社外監査役は除く)	12	12	—	—	—	2
社外役員	10	10	—	—	—	4

- (注) 1 取締役に対して金銭以外の報酬の支払いはありません。
 2 期末現在の在籍人員は、取締役5名、監査役4名であります。
 3 期末においては、取締役が受ける報酬額等は年額9千7百万円以内(うち社外取締役分は1千5百万円以内)となっております。

ロ 提出会社の役員区分ごとの連結報酬等の総額

連結報酬等の総額が1億円以上であるものが存在しないため、記載しておりません。

当社は、取締役および監査役が職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役(取締役であった者を含む。)および監査役(監査役であった者を含む。)の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。

当社は、会社法第427条第1項の規定により、取締役(業務執行取締役等である者を除く。)および監査役との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結しております。但し、当該契約に基づく責任の限度額は、金300万円以上で予め定めた金額又は法令が規定する額のいずれか高い額としております。

2) 株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 16銘柄
 貸借対照表計上額の合計額 261百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)ワンダーコーポレーション	3,045	2	取引関係強化のため
(株)スペースシャワーネットワーク	9,600	3	営業活動の円滑な推進のため
(株)USEN	7,374	2	営業活動の円滑な推進のため

みなし保有株式

該当事項はありません。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)ワンダーコーポレーション	3,045	2	取引関係強化のため
(株)スペースシャワーネットワーク	9,600	6	営業活動の円滑な推進のため

みなし保有株式

該当事項はありません。

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

3) 当社と社外取締役および社外監査役との関係

役名	氏名	兼職先	兼職先における 役名	兼職先と 当社との 人的関係	兼職先と 当社との 資本的關係	兼職先と 当社との 取引関係	選任の理由
取締役	南部靖之	株式会社パソナグループ	代表取締役 グループ代表 兼社長	※1	該当ありま せん	該当ありま せん	企業経営における幅広い 見識と豊かな経験から、 当社に必要な経営の監督 と幅広い助言をいただく ため
		株式会社パソナ	代表取締役 会長	該当ありま せん	該当ありま せん	※3	
		株式会社ベネフィット・ ワン	取締役会長	※2	該当ありま せん	該当ありま せん	
監査役	本多 清	該当ありません	—	—	—	—	金融機関および事業会社 の経営に携わることによ り培った幅広い見識と経 験から、当社に必要な経 営の監督とチェック機能 を果たしていただくため
監査役	水戸重之	TMI総合法律事務所	パートナー弁 護士	該当ありま せん	該当ありま せん	※4	主に企業法務、法令、定 款の遵守およびコンプラ イアンスに関する知見と 経験から、当社に必要な 経営の監督とチェック機 能を果たしていただくた め
		株式会社ブロッコリー	監査役	該当ありま せん	該当ありま せん	該当ありま せん	
		株式会社タカラトミー	取締役	該当ありま せん	該当ありま せん	※5	

※1 当社社外取締役南部靖之が代表取締役グループ代表兼社長を務めております。

※2 当社社外取締役南部靖之が取締役会長を務めております。

※3 当社との間に再就職支援にかかる業務委託契約に基づく取引関係があります。

※4 当社との間に法律相談等の取引関係があります。

※5 当社との間に著作物利用契約等に基づく取引関係があります。

当社においては、社外取締役および社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準又は方針を定めておりません。なお、社外取締役南部靖之、社外監査役本多 清および同水戸重之は、一般株主と利益相反の生じるおそれがない独立役員として、東京証券取引所にその旨を届け出ております。

4) 業務を執行した公認会計士の氏名

会計監査については、新日本有限責任監査法人を会計監査人に選任しており、期末だけでなく必要に応じて適宜監査が実施されております。当期において業務を執行した公認会計士の氏名は以下のとおりです。

指定有限責任社員 業務執行社員 内藤哲哉、北池晃一郎

(注)継続監査年数については、7年を超える者がいないため、記載を省略しております。

また、監査業務に係る補助者の構成は、公認会計士8名、その他9名となっております。

5) 監査役監査および会計監査の連携状況

① 監査役と会計監査人の連携状況

監査役は、その職務執行上の必要に応じて、会計監査人に自由にアクセスできるようになっております。また、その職務を効果的に遂行するために会計監査人から年間の監査計画の説明を受け、さらに監査結果の報告を含む定期会合を開催し監査役の職務および活動に関連するあらゆる事項について協議いたします。

② 監査役と内部監査部門の連携状況

監査役の補助者は設置していませんが、内部監査室を設置しております。監査役は、年間の監査計画に従って、内部監査室および各部門から定期的に報告を受け、また、適宜指示を出し、監査しております。

6) 社外取締役および社外監査役のサポート体制

社外取締役および社外監査役の補佐は管理統括部が担当しております。また、非常勤の社外監査役に対しましては、常勤監査役から監査役会において監査状況を説明するとともに、必要の都度、会計監査人、内部監査室およびその他の部門と会合を持ちます。

7) 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める株主総会の決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

8) 取締役の員数

当社は、取締役を10名以内とする旨を定款で定めております。

9) 取締役の選任決議

当社は、取締役の選任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が株主総会に出席することを要する旨ならびに累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

10) 取締役の任期

当社は、経営環境の変化に応じて最適な経営体制のもとに機動的に運営するため、取締役の任期を1年とする旨を定款で定めております。

11) 剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等を機動的に実施するため、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず、取締役会の決議により定める旨を定款で定めております。

12) 単元未満株式についての権利

当社は、単元未満株式について行使できる権利を明確にするために、次の権利以外の権利を行使できない旨を定款で定めております。

①会社法第189条第2項各号に掲げる権利

②会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

③株主の有する株式数に応じて募集株式及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	29	—	30	—
連結子会社	—	—	—	—
計	29	—	30	—

② 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

当社は、会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務を委託していません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社は、監査報酬の決定方針を定めておりませんが、報酬額については監査項目およびその見積時間数の査定などを行い、決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)及び事業年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,542	5,927
受取手形及び売掛金	1,591	1,765
商品及び製品	298	358
仕掛品	200	290
原材料及び貯蔵品	43	44
繰延税金資産	1	83
前渡金	310	23
前払費用	208	216
その他	204	139
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	7,398	8,845
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	472	472
減価償却累計額	△380	△389
建物及び構築物（純額）	92	83
機械及び装置	618	599
減価償却累計額	△601	△585
機械及び装置（純額）	16	14
工具、器具及び備品	235	247
減価償却累計額	△183	△193
工具、器具及び備品（純額）	52	53
土地	0	0
リース資産	29	24
減価償却累計額	△20	△20
リース資産（純額）	9	3
有形固定資産合計	171	156
無形固定資産		
リース資産	3	0
ソフトウェア	114	127
その他	5	35
無形固定資産合計	123	164
投資その他の資産		
投資有価証券	51	※1 270
繰延税金資産	3	24
長期前払費用	1	0
長期未収入金	74	66
その他	444	530
貸倒引当金	△280	△295
投資その他の資産合計	294	596
固定資産合計	589	917
資産合計	7,988	9,763

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	816	989
短期借入金	290	290
1年内返済予定の長期借入金	288	284
リース債務	9	4
未払金	623	824
未払費用	262	283
未払印税	1,718	1,791
未払法人税等	93	231
返品調整引当金	85	73
その他	441	350
流動負債合計	4,628	5,122
固定負債		
長期借入金	444	160
リース債務	4	—
繰延税金負債	1	—
退職給付に係る負債	508	522
資産除去債務	34	34
その他	2	—
固定負債合計	994	716
負債合計	5,623	5,839
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	557	557
利益剰余金	995	2,651
自己株式	△31	△32
株主資本合計	2,521	4,176
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2	3
為替換算調整勘定	△175	△175
退職給付に係る調整累計額	△25	△96
その他の包括利益累計額合計	△198	△268
新株予約権	42	15
純資産合計	2,365	3,923
負債純資産合計	7,988	9,763

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)
売上高	※1 13,343	14,020
売上原価	※1,※2 7,584	※1,※2 7,679
売上総利益	5,758	6,341
販売費及び一般管理費		
販売費	※3 2,141	※3 2,059
一般管理費	※4 2,417	※4 2,395
販売費及び一般管理費合計	4,558	4,454
営業利益	1,200	1,886
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	0
未払印税整理益	15	22
受取手数料	4	4
その他	6	3
営業外収益合計	27	31
営業外費用		
支払利息	12	8
持分法による投資損失	0	0
株式交換関連費用	—	54
その他	1	1
営業外費用合計	14	64
経常利益	1,213	1,853
特別利益		
新株予約権戻入益	15	27
その他	—	2
特別利益合計	15	29
特別損失		
減損損失	9	—
海外事業整理損	※5 59	—
著作権関連損失	10	—
その他	3	—
特別損失合計	83	—
税金等調整前当期純利益	1,146	1,883
法人税、住民税及び事業税	173	331
法人税等調整額	△1	△104
法人税等合計	172	227
当期純利益	973	1,655
非支配株主に帰属する当期純利益	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	973	1,655

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)
当期純利益	973	1,655
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	0
為替換算調整勘定	47	0
退職給付に係る調整額	△58	△70
その他の包括利益合計	※ △9	※ △69
包括利益	963	1,586
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	963	1,586
非支配株主に係る包括利益	—	—

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,000	557	21	△30	1,548
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純利益			973		973
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	973	△0	972
当期末残高	1,000	557	995	△31	2,521

	その他の包括利益累計額				新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1	△223	32	△189	58	1,418
当期変動額						
親会社株主に帰属する当期純利益						973
自己株式の取得						△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	1	47	△58	△9	△15	△25
当期変動額合計	1	47	△58	△9	△15	947
当期末残高	2	△175	△25	△198	42	2,365

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,000	557	995	△31	2,521
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純利益			1,655		1,655
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	1,655	△0	1,655
当期末残高	1,000	557	2,651	△32	4,176

	その他の包括利益累計額				新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	2	△175	△25	△198	42	2,365
当期変動額						
親会社株主に帰属する当期純利益						1,655
自己株式の取得						△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	0	0	△70	△69	△27	△96
当期変動額合計	0	0	△70	△69	△27	1,558
当期末残高	3	△175	△96	△268	15	3,923

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,146	1,883
減価償却費	97	82
減損損失	9	—
長期前払費用償却額	41	34
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	13	15
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△21	14
退職給付に係る調整累計額の増減額 (△は減少)	△58	△70
受取利息及び受取配当金	△1	△1
支払利息	12	8
売上債権の増減額 (△は増加)	279	△174
たな卸資産の増減額 (△は増加)	220	△150
仕入債務の増減額 (△は減少)	△57	173
未払金の増減額 (△は減少)	△453	179
未払費用の増減額 (△は減少)	11	20
未払印税の増減額 (△は減少)	144	72
その他	183	299
小計	1,570	2,388
利息及び配当金の受取額	1	1
利息の支払額	△12	△8
法人税等の支払額	△150	△215
法人税等の還付額	54	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,462	2,165
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△13	△16
無形固定資産の取得による支出	△37	△51
投資有価証券の取得による支出	—	△219
長期前払費用の取得による支出	△41	△34
長期貸付けによる支出	—	△40
長期貸付金の回収による収入	—	2
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	※2 △45	—
その他	△108	△123
投資活動によるキャッシュ・フロー	△248	△482
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	60	—
長期借入金の返済による支出	△313	△288
配当金の支払額	△0	△0
リース債務の返済による支出	△9	△9
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△263	△297
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	951	1,384
現金及び現金同等物の期首残高	3,590	4,542
現金及び現金同等物の期末残高	※1 4,542	※1 5,927

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 5社

主要な連結子会社名 コロムビア・マーケティング(株)、コロムビアソングス(株)

(2) 非連結子会社の数

該当事項はありません。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社数

該当事項はありません。

(2) 持分法適用の関連会社の数 2社

会社等の名称 (株)フューチャーレコーズ、(株)TYMS PROJECT

(株)TYMS PROJECTについては、平成28年12月28日に株式を取得したことにより、当連結会計年度から持分法の適用範囲に含めております。

(3) 持分法非適用の非連結子会社及び関連会社の数

該当事項はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

② たな卸資産

評価基準は原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

商品及び製品 主として先入先出法

仕掛品、原材料及び貯蔵品 主として総平均法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法

主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 15年～18年

② 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する定額法

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 返品調整引当金

将来の返品による損失に備えるため、総売上高に対する返品実績率に基づき、返品損失の見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(3年)による定額法により按分した額を発生連結会計年度より費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度より費用処理することとしております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は当連結会計年度の損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

① 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

② 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(連結貸借対照表関係)

※1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
投資有価証券(株式)	一百万円	9百万円

(連結損益計算書関係)

※1 売上高及び売上原価には下記が含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
返品調整引当金繰入額	85百万円	73百万円
返品調整引当金戻入額	△154 "	△85 "
計	△69百万円	△11百万円

※2 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
売上原価	28百万円	88百万円

※3 販売費の主な内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
広告宣伝費	836百万円	797百万円
運賃荷造費	355 "	326 "
販売増進費	878 "	919 "
貸倒引当金繰入額	70 "	13 "
その他	0 "	2 "
計	2,141百万円	2,059百万円

※4 一般管理費の主な内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
従業員給与・手当	1,186百万円	1,208百万円
退職給付費用	45 "	53 "
その他	1,185 "	1,133 "
計	2,417百万円	2,395百万円

※5 海外事業整理損

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

米国における連結子会社に対する出資の全持分を譲渡したことに伴い発生した為替換算調整勘定取崩額47百万円及びその他発生した損失12百万円であります。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	△1百万円	4百万円
組替調整額	3 "	△2 "
税効果調整前	1百万円	1百万円
税効果額	△0 "	△0 "
その他有価証券評価差額金	1百万円	0百万円
為替換算調整勘定		
当期発生額	0百万円	0百万円
組替調整額	47 "	— "
為替換算調整勘定	47百万円	0百万円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	△29百万円	△77百万円
組替調整額	△29 "	7 "
退職給付に係る調整額	△58百万円	△70百万円
その他の包括利益合計	△9百万円	△69百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	13,512,870	—	—	13,512,870

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	22,590	1,983	—	24,573

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取りによる普通株式の増加

1,983株

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(千株)				当連結会計年度末残高(百万円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	平成18年ストック・オプションとしての新株予約権	普通株式	1	—	—	1	1
提出会社	平成19年ストック・オプションとしての新株予約権	普通株式	47	—	16	30	29
提出会社	平成21年ストック・オプションとしての新株予約権	普通株式	28	—	4	24	12
合計			76	—	20	56	42

(注) 平成19年ストック・オプション及び平成21年ストック・オプションとしての新株予約権の目的となる株式の数の減少は、権利失効によるものです。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	13,512,870	—	—	13,512,870

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	24,573	977	—	25,550

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取りによる普通株式の増加

977株

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(千株)				当連結会計年度末残高(百万円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	平成18年ストック・オプションとしての新株予約権	普通株式	1	—	1	—	—
提出会社	平成19年ストック・オプションとしての新株予約権	普通株式	30	—	20	10	9
提出会社	平成21年ストック・オプションとしての新株予約権	普通株式	24	—	12	12	6
合計			56	—	34	22	15

(注) 平成18年ストック・オプション、平成19年ストック・オプション及び平成21年ストック・オプションとしての新株予約権の目的となる株式の数の減少は、権利失効によるものです。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
現金及び預金勘定	4,542百万円	5,927百万円
現金及び現金同等物	4,542百万円	5,927百万円

※2 出資持分の譲渡により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

出資持分の譲渡により、エスエルジーエルエルシーが連結子会社でなくなったことに伴う売却時の資産及び負債の内訳並びに出資の譲渡価額と売却による支出は次のとおりです。

流動資産	188百万円
固定資産	2 "
流動負債	△196 "
その他	5 "
出資持分の譲渡価額	0百万円
現金及び現金同等物	△45 "
差引：売却による支出	△45百万円

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

有形固定資産

主として事務機器(工具、器具及び備品)等の一部であります。

無形固定資産

ソフトウェアであります。

② リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
1年内	216百万円	216百万円
1年超	234 "	18 "
計	450百万円	234百万円

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

支払手形及び買掛金並びに未払金は、1年以内の支払期日であります。借入金は、主に運転資金の調達を目的としたもので、返済期限は3年以内であります。リース債務は、主に設備投資及び運転資金の調達を目的としたもので、償還期限は1年以内であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日および残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

② 市場リスクの管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等の把握を行っております。

③ 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

適時に必要な資金を把握し、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。(注2)を参照ください。)

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)(*1)	時価(百万円)(*1)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	4,542	4,542	—
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金(*2)	1,591 △3		
	1,588	1,588	—
(3) 投資有価証券 其他有価証券	8	8	—
(4) 長期未収入金 貸倒引当金(*2)	74 △74		
	—	—	—
(5) 支払手形及び買掛金	(816)	(816)	—
(6) 短期借入金	(290)	(290)	—
(7) 1年内返済予定の長期借入金	(288)	(288)	—
(8) リース債務(短期)	(9)	(9)	—
(9) 未払金	(623)	(623)	—
(10) 未払印税	(1,718)	(1,718)	—
(11) 未払法人税等	(93)	(93)	—
(12) 長期借入金	(444)	(438)	5
(13) リース債務(長期)	(4)	(4)	0

(*1)負債に計上されているものについては、()で示しております。

(*2)受取手形及び売掛金、並びに長期未収入金に対して計上している貸倒引当金を控除しております。

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)(*1)	時価(百万円)(*1)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	5,927	5,927	—
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金(*2)	1,765 △3		
	1,762	1,762	—
(3) 投資有価証券 其他有価証券	9	9	—
(4) 長期未収入金 貸倒引当金(*2)	66 △66		
	—	—	—
(5) 支払手形及び買掛金	(989)	(989)	—
(6) 短期借入金	(290)	(290)	—
(7) 1年内返済予定の長期借入金	(284)	(284)	—
(8) リース債務(短期)	(4)	(4)	—
(9) 未払金	(824)	(824)	—
(10) 未払印税	(1,791)	(1,791)	—
(11) 未払法人税等	(231)	(231)	—
(12) 長期借入金	(160)	(158)	1

(*1)負債に計上されているものについては、()で示しております。

(*2)受取手形及び売掛金、並びに長期未収入金に対して計上している貸倒引当金を控除しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

(4) 長期未収入金

これらの時価について、回収見込額等により算定しております。

(5) 支払手形及び買掛金、(6) 短期借入金、(7) 1年内返済予定の長期借入金、(8) リース債務(短期)、

(9) 未払金、(10) 未払印税、並びに(11) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(12) 長期借入金、及び(13) リース債務(長期)

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成28年3月31日	平成29年3月31日
非上場株式	42	261

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	4,542	—	—	—
受取手形及び売掛金	1,591	—	—	—
合計	6,133	—	—	—

なお、長期未収入金74百万円については、償還予定額が見込めませんので、上記区分に含めておりません。

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	5,927	—	—	—
受取手形及び売掛金	1,765	—	—	—
合計	7,692	—	—	—

なお、長期未収入金66百万円については、償還予定額が見込めませんので、上記区分に含めておりません。

(注4) リース債務、長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	290	—	—	—	—	—
長期借入金	288	284	110	50	—	—
リース債務	9	4	—	—	—	—
合計	587	288	110	50	—	—

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	290	—	—	—	—	—
長期借入金	284	110	50	—	—	—
リース債務	4	—	—	—	—	—
合計	578	110	50	—	—	—

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

上場株式(連結貸借対照表計上額8百万円)については、重要性が乏しいため記載を省略しております。また、非上場株式(連結貸借対照表計上額42百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載を省略しております。

当連結会計年度(平成29年3月31日)

上場株式(連結貸借対照表計上額9百万円)については、重要性が乏しいため記載を省略しております。また、非上場株式(連結貸借対照表計上額261百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載を省略しております。

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

3 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、受給者向けには確定給付企業年金制度を、従業員向けには退職慰労金支給規程に基づく退職一時金制度と確定拠出年金制度を併用した年金制度を採用しております。

なお、従業員の退職に際して割増退職金を支払う場合があります。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
退職給付債務の期首残高	1,213	1,045
勤務費用	18	18
利息費用	18	15
数理計算上の差異の発生額	25	80
退職給付の支払額	△231	△226
退職給付債務の期末残高	1,045	933

(注) 簡便法を適用した制度によるものも含まれております。

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
年金資産の期首残高	684	537
期待運用収益	10	8
数理計算上の差異の発生額	△3	2
事業主からの拠出額	40	40
退職給付の支払額	△192	△176
その他	△2	△1
年金資産の期末残高	537	410

(注) 簡便法を適用した制度によるものも含まれております。

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び資産の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	552	416
年金資産	△537	△410
	15	5
非積立型制度の退職給付債務	493	516
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	508	522
退職給付に係る負債	508	522
退職給付に係る資産	—	—
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	508	522

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
勤務費用	18	18
利息費用	18	15
期待運用収益	△10	△8
数理計算上の差異の費用処理額	△29	7
確定給付制度に係る退職給付費用	△2	33

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
数理計算上の差異	△58	△70
合計	△58	△70

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
未認識数理計算上の差異	△25	△96
合計	△25	△96

(7) 年金資産に関する事項

① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
債券	74.4%	74.9%
株式	25.5%	24.9%
現金及び預金	0.1%	0.2%
合計	100.0%	100.0%

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表わしております。)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
割引率	1.5%	0.0%
長期期待運用収益率	1.5%	1.5%
予想昇給率	1.2%	1.2%

3 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度70百万円、当連結会計年度57百万円であります。

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1 当該連結会計年度における費用計上額及び科目名

該当事項はありません。

2 権利不行使による失効により利益として計上した金額

新株予約権戻入益 15百万円

3 スtock・オプションの内容、規模およびその変動状況

新株予約権方式によるストック・オプション

	第10回新株予約権	第11回新株予約権	第12回新株予約権
会社名	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	平成17年3月31日	平成17年6月29日	平成17年6月29日
付与対象者の区分及び人数	当社使用人 7名	当社執行役 4名	子会社取締役 1名
株式の種類及び付与数	普通株式 10,500株	普通株式 12,000株	普通株式 5,000株
付与日	平成17年4月1日	平成17年6月29日	平成17年6月29日
権利確定条件	(注1)	(注1)	(注1)
対象勤務期間	平成17年4月1日～平成20年3月31日	平成17年6月29日～平成20年6月28日	平成17年6月29日～平成21年3月31日
権利行使期間	平成17年4月1日～平成27年3月31日	平成17年6月29日～平成27年6月28日	平成17年6月29日～平成27年6月28日
規模および変動状況			
権利確定前			
期首(株)	—	—	—
付与(株)	—	—	—
失効(株)	—	—	—
権利確定(株)	—	—	—
未確定残(株)	—	—	—
権利確定後			
期首(株)	3,000	12,000	5,000
権利確定(株)	—	—	—
権利行使(株)	—	—	—
失効(株)	3,000	12,000	5,000
未行使残(株)	—	—	—
単価情報			
権利行使価格	2,140円	2,200円	2,000円
行使時平均株価	—	—	—
付与日における公正な評価単価	—	—	—

	第13回新株予約権	第14回新株予約権	第15回新株予約権
会社名	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	平成18年3月30日	平成18年4月26日	平成18年4月26日
付与対象者の区分及び人数	当社執行役 2名	当社使用人 3名	当社使用人 15名
株式の種類及び付与数	普通株式 22,500株	普通株式 4,500株	普通株式 15,000株
付与日	平成18年3月30日	平成18年4月26日	平成18年4月26日
権利確定条件	(注1)	(注1)	(注1)
対象勤務期間	平成18年3月30日～平成21年3月29日	平成18年4月26日～平成21年4月25日	平成18年4月26日～平成21年4月25日
権利行使期間	平成18年3月30日～平成28年3月29日	平成18年6月26日～平成28年4月25日	平成19年7月2日～平成27年6月29日
規模および変動状況			
権利確定前			
期首(株)	—	—	—
付与(株)	—	—	—
失効(株)	—	—	—
権利確定(株)	—	—	—
未確定残(株)	—	—	—
権利確定後			
期首(株)	10,000	4,500	10,000
権利確定(株)	—	—	—
権利行使(株)	—	—	—
失効(株)	10,000	1,500	10,000
未行使残(株)	—	3,000	—
単価情報			
権利行使価格	2,880円	3,000円	3,140円
行使時平均株価	—	—	—
付与日における公正な評価単価	—	—	—

	第16回新株予約権	第17回新株予約権	第18回新株予約権
会社名	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	平成18年6月28日	平成19年5月15日	平成19年5月15日
付与対象者の区分及び人数	当社執行役 3名	当社執行役 12名	当社使用人 20名 子会社使用人 1名
株式の種類及び付与数	普通株式 4,000株	普通株式 65,000株	普通株式 25,000株
付与日	平成18年7月1日	平成19年5月15日	平成19年5月15日
権利確定条件	(注1)	(注1)	(注1)
対象勤務期間	平成18年7月1日～ 平成21年6月30日	平成19年5月15日～ 平成22年5月14日	平成19年5月15日～ 平成22年5月14日
権利行使期間	平成18年9月1日～ 平成28年6月30日	平成19年7月15日～ 平成29年5月14日	平成21年5月16日～ 平成28年6月28日
規模および変動状況			
権利確定前			
期首(株)	—	—	—
付与(株)	—	—	—
失効(株)	—	—	—
権利確定(株)	—	—	—
未確定残(株)	—	—	—
権利確定後			
期首(株)	1,000	22,500	19,500
権利確定(株)	—	—	—
権利行使(株)	—	—	—
失効(株)	—	5,000	6,500
未行使残(株)	1,000	17,500	13,000
単価情報			
権利行使価格	2,440円	2,140円	2,220円
行使時平均株価	—	—	—
付与日における公正な評価単価	1,136.20円	962.00円	951.40円

	第20回新株予約権	第22回新株予約権
会社名	提出会社	提出会社
決議年月日	平成20年2月27日	平成21年6月24日
付与対象者の区分及び人数	子会社取締役 1名	当社執行役 4名 当社使用人 3名
株式の種類及び付与数	普通株式 5,000株	普通株式 28,500株
付与日	平成20年2月28日	平成21年7月1日
権利確定条件	(注1)	(注1)
対象勤務期間	平成20年2月28日～ 平成23年2月27日	平成21年7月1日～ 平成24年6月30日
権利行使期間	平成20年3月28日～ 平成30年2月27日	平成21年8月1日～ 平成31年6月30日
規模および変動状況		
権利確定前		
期首(株)	—	—
付与(株)	—	—
失効(株)	—	—
権利確定(株)	—	—
未確定残(株)	—	—
権利確定後		
期首(株)	5,000	28,500
権利確定(株)	—	—
権利行使(株)	—	—
失効(株)	5,000	4,000
未行使残(株)	—	24,500
単価情報		
権利行使価格	1,300円	760円
行使時平均株価	—	—
付与日における公正な評価単価	567.80円	505.80円

- (注) 1 被割当者が当社および当社の子会社の取締役、執行役、使用人ならびに取引先等であることを条件として対象勤務期間にわたり段階的に行使可能となります。
- 2 平成25年10月1日付で普通株式およびA種優先株式につき20株を1株とする株式併合を行ったため、当該連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し調整しております。

4 ストック・オプションの権利確定数の見積方法

権利確定日において割当てたストック・オプションがすべて権利確定するものとします。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 当該連結会計年度における費用計上額及び科目名

該当事項はありません。

2 権利不行使による失効により利益として計上した金額

新株予約権戻入益 27百万円

3 ストック・オプションの内容、規模およびその変動状況

新株予約権方式によるストック・オプション

	第14回新株予約権	第16回新株予約権	第17回新株予約権
会社名	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	平成18年4月26日	平成18年6月28日	平成19年5月15日
付与対象者の区分及び人数	当社使用人 3名	当社執行役 3名	当社執行役 12名
株式の種類及び付与数	普通株式 4,500株	普通株式 4,000株	普通株式 65,000株
付与日	平成18年4月26日	平成18年7月1日	平成19年5月15日
権利確定条件	(注1)	(注1)	(注1)
対象勤務期間	平成18年4月26日～ 平成21年4月25日	平成18年7月1日～ 平成21年6月30日	平成19年5月15日～ 平成22年5月14日
権利行使期間	平成18年6月26日～ 平成28年4月25日	平成18年9月1日～ 平成28年6月30日	平成19年7月15日～ 平成29年5月14日
規模および変動状況			
権利確定前			
期首(株)	—	—	—
付与(株)	—	—	—
失効(株)	—	—	—
権利確定(株)	—	—	—
未確定残(株)	—	—	—
権利確定後			
期首(株)	3,000	1,000	17,500
権利確定(株)	—	—	—
権利行使(株)	—	—	—
失効(株)	3,000	1,000	7,500
未行使残(株)	—	—	10,000
単価情報			
権利行使価格	3,000円	2,440円	2,140円
行使時平均株価	—	—	—
付与日における公正な評価単価	—	1,136.20円	962.00円

	第18回新株予約権	第22回新株予約権
会社名	提出会社	提出会社
決議年月日	平成19年5月15日	平成21年6月24日
付与対象者の区分及び人数	当社使用人 20名 子会社使用人 1名	当社執行役 4名 当社使用人 3名
株式の種類及び付与数	普通株式 25,000株	普通株式 28,500株
付与日	平成19年5月15日	平成21年7月1日
権利確定条件	(注1)	(注1)
対象勤務期間	平成19年5月15日～ 平成22年5月14日	平成21年7月1日～ 平成24年6月30日
権利行使期間	平成21年5月16日～ 平成28年6月28日	平成21年8月1日～ 平成31年6月30日
規模および変動状況		
権利確定前		
期首(株)	—	—
付与(株)	—	—
失効(株)	—	—
権利確定(株)	—	—
未確定残(株)	—	—
権利確定後		
期首(株)	13,000	24,500
権利確定(株)	—	—
権利行使(株)	—	—
失効(株)	13,000	12,500
未行使残(株)	—	12,000
単価情報		
権利行使価格	2,220円	760円
行使時平均株価	—	—
付与日における公正な評価単価	951.40円	505.80円

- (注) 1 被割当者が当社および当社の子会社の取締役、執行役、使用人ならびに取引先等であることを条件として対象勤務期間にわたり段階的に行使可能となります。
- 2 平成25年10月1日付で普通株式およびA種優先株式につき20株を1株とする株式併合を行ったため、当該連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し調整しております。

4 スtock・オプションの権利確定数の見積方法

権利確定日において割当てたStock・オプションがすべて権利確定するものとします。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
たな卸資産評価減	188百万円	214百万円
未払印税	50 "	148 "
前払費用	142 "	129 "
未払賞与	72 "	75 "
未払事業税	18 "	29 "
その他	35 "	37 "
繰延税金資産(流動)計	508百万円	634百万円
繰延税金資産(固定)		
繰越欠損金	2,237百万円	1,935百万円
退職給付に係る負債	155 "	160 "
減価償却超過額	151 "	135 "
貸倒引当金	84 "	90 "
貸倒償却	71 "	71 "
その他	68 "	68 "
繰延税金資産(固定)計	2,769百万円	2,461百万円
繰延税金資産小計	3,277百万円	3,095百万円
評価性引当額	△3,272百万円	△2,986百万円
繰延税金資産合計	5百万円	109百万円
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	△1百万円	△1百万円
繰延税金負債(固定)計	△1百万円	△1百万円
繰延税金負債合計	△1百万円	△1百万円
繰延税金資産の純額	4百万円	108百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率	33.06%	30.86%
(調整)		
評価性引当額の増減	△34.74%	△20.42%
交際費等永久に損金に 算入されない項目	1.86%	1.26%
住民税均等割等	0.69%	0.42%
その他	14.19%	△0.05%
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	15.06%	12.07%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税法の一部を改正する等の法律等の一部を改正する法律」及び「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための地方税法及び地方交付税法の一部を改正する法律等の一部を改正する法律」が平成28年11月18日に国会で成立したことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、前連結会計年度のものから変更されております。

なお、この税率変更による影響は軽微であります。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、財務情報の入手が可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、企画、制作した音源、映像などのコンテンツを様々な商品に加工し、その商品に適した販売ルートにより消費者へ提供しております。したがって、当社は、制作部門および販売ルートを基礎としたセグメントから構成されており、「市販／配信」事業および「特販／通販」事業の2つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「市販／配信」事業は、企画、制作した音源、映像などのコンテンツに基づく商品を主に販売しております。

「特販／通販」事業は、「市販／配信」事業が制作した音源、映像などのコンテンツを二次利用した商品を主に販売しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他(注)1	合計
	市販／配信	特販／通販	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,021	2,088	12,109	1,233	13,343
セグメント間の内部売上高 又は振替高	92	8	101	24	126
計	10,113	2,097	12,210	1,258	13,469
セグメント利益	1,582	1,135	2,717	370	3,088
その他の項目					
減価償却費	24	—	24	9	34

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、音楽著作権取得管理事業及び製造販売受託事業等を含んでおります。

2 資産及び負債を事業セグメント別に配分しておりませんので、セグメント資産及び負債の開示を省略しております。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他(注)1	合計
	市販/配信	特販/通販	計		
売上高					
外部顧客への売上高	11,379	1,791	13,171	849	14,020
セグメント間の内部売上高 又は振替高	117	7	125	18	144
計	11,497	1,799	13,296	867	14,164
セグメント利益	2,491	885	3,377	301	3,678
その他の項目					
減価償却費	24	—	24	9	33

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、音楽著作権取得管理事業及び製造販売受託事業等を含んでおります。

2 資産及び負債を事業セグメント別に配分しておりませんので、セグメント資産及び負債の開示を省略しております。

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	12,210	13,296
「その他」の区分の売上高	1,258	867
セグメント間取引消去	△126	△144
連結財務諸表の売上高	13,343	14,020

(単位：百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	2,717	3,377
「その他」の区分の利益	370	301
セグメント間取引消去	3	3
全社費用(注)	△1,891	△1,795
連結財務諸表の営業利益	1,200	1,886

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(単位：百万円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	24	24	9	9	62	48	97	82
減損損失	—	—	—	—	9	—	9	—

(注) 前連結会計年度の「調整額」の金額は、報告セグメントに帰属しない全社資産に係る減損損失であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
Amazon.com Int'l Sales, Inc.	1,734	市販／配信
(株)星光堂	1,526	市販／配信

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
(株)星光堂	1,926	市販／配信
Amazon.com Int'l Sales, Inc.	1,730	市販／配信

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	調整額	連結財務諸表 計上額
	市販／配信	特販／通販	計			
減損損失	—	—	—	—	9	9

(注) 「調整額」の金額は、報告セグメントに帰属しない全社資産に係る減損損失であります。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	(株)フュー チャーレ コーズ	東京都 港区	100	アーティストに関 わる著作物の企画 制作、管理等	(所有) 直接33.0	役員の兼任	資金の貸付 (注1)	—	長期貸付金 (注2)	9

(注)1 資金の貸付につきましては、市場金利を勘案して決定しております。

(注)2 連結財務諸表上は持分法の適用により上記金額から7百万円を控除した金額を計上しております。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	(株)フュー チャーレ コーズ	東京都 港区	100	アーティストに関 わる著作物の企画 制作、管理等	(所有) 直接33.0	役員の兼任	資金の貸付 (注1)	—	長期貸付金 (注2)	9

(注)1 資金の貸付につきましては、市場金利を勘案して決定しております。

(注)2 連結財務諸表上は持分法の適用により上記金額から8百万円を控除した金額を計上しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

株式会社フェイス(東京証券取引所に上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1株当たり純資産額	172.18円	289.76円
1株当たり当期純利益	72.17円	122.77円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	—	—

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	973	1,655
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	973	1,655
普通株式期中平均株式数(千株)		
普通株式	13,489	13,487
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に用いられた普通株式増加数の内訳(千株)		
新株予約権	—	—
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権 (5種類、1,180個) 普通株式 59千株	新株予約権 (2種類、440個) 普通株式 22千株

(重要な後発事象)

(株式交換契約の締結)

当社および株式会社フェイス(以下「フェイス」といいます。)は、平成29年3月28日開催のそれぞれの取締役会において、フェイスを株式交換完全親会社とし、当社を株式交換完全子会社とする株式交換(以下「本株式交換」といいます。)を行うことを決議し、同日両社間で株式交換契約(以下「本株式交換契約」といいます。)を締結いたしました。

本株式交換契約は、平成29年6月23日に開催した定時株主総会の決議により承認を受けております。

1. 本株式交換の目的

当社およびフェイスは、急速に変化していく事業環境の中で、資本金・事業面の一元化を進め、両社の技術・人材を効率的に活用していくことを目指しています。本株式交換により、ユーザーサイドとアーティスト等のコンテンツ制作者サイド双方に対して新たな事業手法を導入していくために必要な投資を、機を逸することなく果敢に行い、これまで以上に新たなサービス・新市場を創出して両社の企業価値をさらに向上させてまいります。

2. 本株式交換の要旨

(1) 本株式交換の日程

本株式交換契約締結日(両社)	平成29年3月28日
本株式交換契約承認定時株主総会開催日(当社)	平成29年6月23日
本株式交換契約承認定時株主総会開催日(フェイス)	平成29年6月29日(予定)
最終売買日(当社)	平成29年7月26日(予定)
上場廃止日(当社)	平成29年7月27日(予定)
本株式交換の実施予定日(効力発生日)	平成29年8月1日(予定)

(2) 本株式交換に係る割当ての内容

	フェイス	当社
本株式交換に係る割当比率	1	0.59
本株式交換により交付する株式数	フェイスの普通株式：3,900,834株(予定)	

(注1) 本株式交換に係る割当比率

当社の株式1株に対して、フェイスの普通株式0.59株を割当て交付いたします。なお、本株式交換比率は、本株式交換契約に従い、算定の基礎となる諸条件に重大な変更が生じた場合には、両社間で協議の上、変更することがあります。

(注2) 本株式交換により交付する株式数

フェイスは、本株式交換に際して、本株式交換によりフェイスが当社株式(ただし、フェイスが保有する当社株式は除きます。)の全てを取得する直前時における当社株主の皆様(ただし、フェイスを除きます。)に対し、保有する当社株式に代えて、保有する当社株式の数の合計に0.59を乗じて得た数のフェイス株式を交付いたします。

(3) 本株式交換に係る割当ての内容の算定根拠

株式交換比率の算定に当たっては、当社は、第三者算定機関として株式会社ブルータス・コンサルティングを、また、法務アドバイザーとして岩田合同法律事務所を選定し、一方、フェイスは、第三者算定機関として野村証券株式会社を、また、法務アドバイザーとしてアンダーソン・毛利・友常法律事務所を選定しました。

株式会社ブルータス・コンサルティングは、当社およびフェイスの双方について、市場株価法、類似会社比較法およびDCF法による分析を行い、これらを総合的に勘案して株式交換比率を算定しております。

野村証券株式会社は、当社およびフェイスの双方について、市場株価平均法およびDCF法による分析を行い、これらを総合的に勘案して株式交換比率を算定しております。

これらの算定結果および法務アドバイザーの助言を参考に、当事者間で協議し株式交換比率を決定いたしました。

(4) 利益相反を回避するための措置

当社は、本株式交換が当社の少数株主にとって不利益な条件の下で行われることを防止するため、当社およびフェイスから独立した外部の有識者で構成される第三者委員会を設置し、本株式交換に応じることが当社の少数

株主にとって不利益なものではないかについて諮問しました。手続き上の利益相反回避措置の説明、算定結果その他の検討資料を前提として、当社が本株式交換に応じることは当社の少数株主にとって不利益なものではないと認められる旨の答申書を第三者委員会より受領しております。

(5) 株式交換完全親会社となる会社の概要

名称	株式会社フェイス
所在地	京都府京都市中京区烏丸通御池下る虎屋町566-1 井門明治安田生命ビル
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 平澤 創
事業内容	コンテンツ配信サービス事業の開発・支援 コンテンツフォーマット技術・音源技術・音声信号処理技術の開発・ライセンス提供 コンテンツ配信プラットフォームの構築等
資本金	3,218百万円

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	290	290	1.15	—
1年以内に返済予定の長期借入金	288	284	1.28	—
1年以内に返済予定のリース債務	9	4	1.73	—
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	444	160	0.91	平成30年6月 ～平成31年7月
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	4	—	—	—
合計	1,036	738	—	—

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額は次のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	110	50	—	—

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	3,287	6,995	10,574	14,020
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (百万円)	545	1,153	1,724	1,883
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	503	999	1,476	1,655
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	37.35	74.12	109.44	122.77

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益 (円)	37.35	36.76	35.32	13.32

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,900	4,100
売掛金	2,014	2,166
商品及び製品	298	358
仕掛品	200	290
原材料及び貯蔵品	43	44
前渡金	21	23
前払費用	194	199
繰延税金資産	—	50
未収入金	287	302
その他	110	80
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	6,072	7,615
固定資産		
有形固定資産		
建物	92	83
機械及び装置	16	14
工具、器具及び備品	52	53
土地	0	0
リース資産	9	3
有形固定資産合計	171	156
無形固定資産		
ソフトウェア	105	104
リース資産	3	0
その他	4	4
無形固定資産合計	114	108
投資その他の資産		
投資有価証券	51	261
関係会社株式	194	204
長期貸付金	9	30
破産更生債権等	—	1
長期前払費用	0	0
繰延税金資産	—	17
長期未収入金	64	46
その他	437	501
貸倒引当金	△265	△272
投資その他の資産合計	492	791
固定資産合計	778	1,056
資産合計	6,851	8,671

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	203	160
買掛金	563	801
短期借入金	290	290
1年内返済予定の長期借入金	288	284
リース債務	9	4
未払金	798	1,062
未払費用	192	202
未払印税	1,571	1,698
未払法人税等	45	181
前受金	23	22
預り金	68	69
返品調整引当金	85	73
その他	179	47
流動負債合計	4,318	4,898
固定負債		
長期借入金	444	160
リース債務	4	—
繰延税金負債	1	—
退職給付引当金	482	426
資産除去債務	34	34
その他	16	12
固定負債合計	983	633
負債合計	5,302	5,532
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金		
その他資本剰余金	169	169
資本剰余金合計	169	169
利益剰余金		
利益準備金	760	760
その他利益剰余金	△395	1,221
利益剰余金合計	365	1,982
自己株式	△31	△32
株主資本合計	1,503	3,120
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2	3
評価・換算差額等合計	2	3
新株予約権	42	15
純資産合計	1,548	3,139
負債純資産合計	6,851	8,671

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)
売上高	12,160	13,159
売上原価	6,945	7,264
売上総利益	5,215	5,895
販売費及び一般管理費	※2 4,711	※2 4,763
営業利益	503	1,131
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	323	429
受取手数料	78	77
未払印税整理益	15	22
その他	16	15
営業外収益合計	435	546
営業外費用		
支払利息	12	8
株式交換関連費用	—	54
その他	1	1
営業外費用合計	13	64
経常利益	925	1,613
特別利益		
新株予約権戻入益	15	27
その他	—	2
特別利益合計	15	29
特別損失		
減損損失	9	—
海外事業整理損	5	—
その他	3	—
特別損失合計	18	—
税引前当期純利益	922	1,643
法人税、住民税及び事業税	△34	96
法人税等調整額	—	△69
法人税等合計	△34	26
当期純利益	956	1,617

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	1,000	169	169	760	△1,352	△591
当期変動額						
当期純利益					956	956
自己株式の取得						
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	—	—	—	—	956	956
当期末残高	1,000	169	169	760	△395	365

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計		
当期首残高	△30	547	1	1	58	607
当期変動額						
当期純利益		956				956
自己株式の取得	△0	△0				△0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			1	1	△15	△14
当期変動額合計	△0	955	1	1	△15	941
当期末残高	△31	1,503	2	2	42	1,548

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	1,000	169	169	760	△395	365
当期変動額						
当期純利益					1,617	1,617
自己株式の取得						
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	—	—	—	—	1,617	1,617
当期末残高	1,000	169	169	760	1,221	1,982

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	△31	1,503	2	2	42	1,548
当期変動額						
当期純利益		1,617				1,617
自己株式の取得	△0	△0				△0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			0	0	△27	△26
当期変動額合計	△0	1,616	0	0	△27	1,590
当期末残高	△32	3,120	3	3	15	3,139

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

・時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

・時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

・商品及び製品

先入先出法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

・仕掛品、原材料及び貯蔵品

総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法

(主な耐用年数)

建物 15年～18年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する定額法

3 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 返品調整引当金

将来の返品による損失に備えるため、総売上高に対する返品実績率に基づき、返品損失の見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(3年)による定額法により按分した額を発生事業年度より費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度より費用処理することとしております。

4 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(3) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産及び負債

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
短期金銭債権	2,155百万円	2,222百万円
長期金銭債権	9 "	9 "
短期金銭債務	411 "	480 "
長期金銭債務	14 "	12 "

(損益計算書関係)

1 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
営業取引(売上高)	1百万円	4百万円
営業取引(仕入高)	33 "	32 "
営業取引(その他)	1,907 "	2,083 "
営業取引以外の取引	409 "	516 "

※2 販売費及び一般管理費の主要なものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
販売増進費	2,110百万円	2,275百万円
広告宣伝費	807 "	774 "
従業員給与・手当	675 "	686 "
退職給付費用	27 "	36 "
減価償却費	69 "	56 "
貸倒引当金繰入額	69 "	6 "
販売費及び一般管理費のうち 販売費の割合	約65%	約65%

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成28年3月31日	平成29年3月31日
子会社株式	194	194
関連会社株式	—	9
計	194	204

これらについては、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。表中の貸借対照表計上額は減損処理後の帳簿価額であります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
たな卸資産評価減	188百万円	214百万円
短期貸付金	182 "	182 "
未払印税	50 "	148 "
前払費用	142 "	129 "
未払賞与	51 "	51 "
その他	40 "	51 "
繰延税金資産(流動)計	656百万円	777百万円
繰延税金資産(固定)		
繰越欠損金	774百万円	403百万円
退職給付引当金	147 "	130 "
減価償却超過額	144 "	127 "
貸倒引当金	81 "	83 "
貸倒償却	70 "	70 "
その他	70 "	73 "
繰延税金資産(固定)計	1,288百万円	889百万円
繰延税金資産小計	1,944百万円	1,666百万円
評価性引当額	△1,944 "	△1,596 "
繰延税金資産合計	一百万円	69百万円
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	△1百万円	△1百万円
繰延税金負債(固定)計	△1百万円	△1百万円
繰延税金負債合計	△1百万円	△1百万円
繰延税金資産(負債)の純額	△1百万円	68百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率	33.06%	30.86%
(調整)		
評価性引当額の増減	△45.44%	△22.84%
交際費等永久に損金に 算入されない項目	2.09%	1.32%
受取配当金等永久に益金に 算入されない項目	△11.58%	△8.05%
住民税均等割等	0.63%	0.35%
その他	17.51%	△0.03%
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	△3.73%	1.61%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税法の一部を改正する等の法律等の一部を改正する法律」及び「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための地方税法及び地方交付税法の一部を改正する法律等の一部を改正する法律」が平成28年11月18日に国会で成立したことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、前事業年度のものから変更されております。

なお、この税率変更による影響は軽微であります。

(重要な後発事象)

(株式交換契約の締結)

当社および株式会社フェイス(以下「フェイス」といいます。)は、平成29年3月28日開催のそれぞれの取締役会において、フェイスを株式交換完全親会社とし、当社を株式交換完全子会社とする株式交換を行うことを決議し、同日両社間で株式交換契約を締結いたしました。

本株式交換契約は、平成29年6月23日に開催した定時株主総会の決議により承認を受けております。

詳細につきましては、「第5〔経理の状況〕 1〔連結財務諸表等〕 (1)〔連結財務諸表〕 〔注記事項〕 (重要な後発事象)」をご覧ください。

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形 固定 資産	建物	472	—	—	8	472	389
	機械及び装置	618	1	20	4	599	585
	工具、器具及び備品	233	18	7	17	245	191
	土地	0	—	—	—	0	—
	リース資産	29	—	5	5	24	20
	計	1,355	20	33	35	1,342	1,185
無形 固定 資産	ソフトウェア	915	37	20	39	933	829
	リース資産	24	—	—	3	24	23
	その他	9	—	—	0	9	5
	計	949	37	20	42	967	858

(注) 当期首残高及び当期末残高は、取得価額で記載しております。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	266	39	33	273
返品調整引当金	85	73	85	73

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎決算期の翌日から3カ月以内
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とします。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載し、そのアドレスは次のとおりであります。 http://columbia.jp/company/
株主に対する特典	なし

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について次の権利以外の権利を行使することができません。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第165期(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日) 平成28年6月27日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書

事業年度 第165期(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日) 平成28年6月27日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第166期第1四半期(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日) 平成28年8月15日関東財務局長に提出。

第166期第2四半期(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日) 平成28年11月14日関東財務局長に提出。

第166期第3四半期(自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日) 平成29年2月14日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書 平成28年6月28日関東財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号(財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生)の規定に基づく臨時報告書 平成29年3月27日関東財務局長に提出。(連結子会社からの剰余金の配当に伴う提出)

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第6号の2(株式交換の決定)の規定に基づく臨時報告書 平成29年3月28日関東財務局長に提出。

(5) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書

事業年度 第162期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) 平成28年6月27日関東財務局長に提出。

事業年度 第163期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) 平成28年6月27日関東財務局長に提出。

事業年度 第164期(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日) 平成28年6月27日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成29年 6 月 26 日

日本コロムビア株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	内 藤 哲 哉	Ⓔ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	北 池 晃 一 郎	Ⓔ

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本コロムビア株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本コロムビア株式会社及び連結子会社の平成29年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は、平成29年3月28日開催の取締役会において、株式会社フェイスを株式交換完全親会社、会社を株式交換完全子会社とする株式交換を行うことを決議し、同日付で株式交換契約を締結している。当該株式交換契約は平成29年6月23日開催の定時株主総会において承認されている。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日本コロムビア株式会社の平成29年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、日本コロムビア株式会社が平成29年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- ※ 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成29年 6 月 26 日

日本コロムビア株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 内 藤 哲 哉 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 北 池 晃 一 郎 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本コロムビア株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第166期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本コロムビア株式会社の平成29年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は、平成29年3月28日開催の取締役会において、株式会社フェイスを株式交換完全親会社、会社を株式交換完全子会社とする株式交換を行うことを決議し、同日付で株式交換契約を締結している。当該株式交換契約は平成29年6月23日開催の定時株主総会において承認されている。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- ※ 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 内部統制報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の4第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年6月26日

【会社名】 日本コロムビア株式会社

【英訳名】 Nippon Columbia Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 吉田真市

【最高財務責任者の役職氏名】 取締役最高財務責任者 鈴木千佳代

【本店の所在の場所】 東京都港区虎ノ門四丁目1番40号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長 吉田眞市及び最高財務責任者 鈴木千佳代は、財務報告に係る内部統制の整備及びその運用の責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について(意見書)」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用している。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものである。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成29年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠した。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制(全社的な内部統制)の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定している。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行った。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社並びに連結子会社及び持分法適用会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定した。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社及び連結子会社2社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定した。なお、上記以外の連結子会社3社及び持分法適用関連会社2社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めていない。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高(連結会社間取引消去後)の金額を合算した結果及び質的重要性を勘案して、前連結会計年度の連結売上高の概ね3分の2に達している3事業拠点を「重要な事業拠点」とした。選定した重要な事業拠点については、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金、制作原価、印税及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象とした。なお、当該業務プロセスには選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスも評価の対象に含まれている。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断した。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

該当事項はありません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年6月26日
【会社名】	日本コロムビア株式会社
【英訳名】	Nippon Columbia Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 吉 田 眞 市
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役最高財務責任者 鈴 木 千佳代
【本店の所在の場所】	東京都港区虎ノ門四丁目1番40号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 吉田眞市及び当社最高財務責任者 鈴木千佳代は、当社の第166期(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

